

102
37
2

徒然草

(慶長木活版)

上

102
37
2

卷二

日
吳

Keio Gaku Library



者贈奇
氏董林爵伯
日 月九年 和曆
— 83 — 西曆
館書圖塾義應慶

多岐と見ゆべきことなきに河内守なりつるものなり。其の
竹境のいさよのりきとてさるる事とて帝まはるるにのりぬぬ
しるる男もあつてよわりのゆゑに
おすの位ふくまのりゆありせとてさるる事とて
あは

あは 後宇多院崩御の出家の天王淨辨を遣はす
信らふべき事ありあはるる事とてさるる事とて

白鷺白鷺様

放鳩

花をいふは昔あはるる事とてさるる事とて
百首の歌を一時事なり 兼好法師

秋のあかり

法下茶屋

わりの山と地ありき事の上より
後拾遺十四卷二月とありてその日に
あはるる事とてさるる事とて

樞心トメ人ハシツケ又ハ一夜ノ向ニサニ月ノカクルトハ
己一令ノ聊ラト作ル人モ有ホワサト不同ナキヤウニモ
一夜ノ不衣ト云モアリ 却谷翁ははるる

武蔵守師直ニ隨從セラシタル由太平記ノ二十

尾 卷二 見 奇 行 狀 未 詳 後 日 可 尋 究 系 圖 左 三

護國院藏書

兼好得道人大意ハ儒釋道ノ三ヲ兼備スル者

歟

一 草子ノ大體ハ清少納言枕草紙ヲ摸シ多クハ源

氏物語ノ詞ヲ用

一 作意ハ老佛ヲ本トメ無常ヲ觀シ名聞ヲ離シ專

多岐と見ゆるは... 河内... 其... 兼好の

兼好の位... 兼好の位... 兼好の位... 兼好の位...

兼好の位... 兼好の位... 兼好の位... 兼好の位...

白鷺白狐様

放埒

百首の歌を... 兼好法師

手枕の御... 兼好法師

秋のあけ... 兼好法師

兼好の山... 兼好法師

後拾遺十四... 兼好法師

兼好の歌合... 太平記... 兼好法師

一 兼好の草... 兼好法師

後醍醐大皇ノ時代ノ人也

武蔵守師直ニ随從セラシタル由

太平記ノ二十

尾 兼好の... 兼好法師

兼好得道ノ大意ハ儒釋道ノ三ヲ兼備スル者歟

一 草子ノ大體ハ清少納言枕草紙ヲ摸ヒ多クハ源

氏物語ノ詞ヲ用

一作意ハ老佛ヲ本トメ無常ヲ觀シ名聞ヲ離シ專

ヲ無為シ樂ン事ヲ勸メ傍ラ節序ノ風景ヲ翫ヒ
物ノ情ヲ知ラシムル者乎

一條段ノ多少次第ハ數本ヲ以テ按合スルニ各各
不同今善ナルニ隨テ決メ上ハ百三十七段下百
五段合メ貳百四十二條歟

○玄上ノウセタレ一十二モ不見
○法顯三行が後ノ食シコウ名一十二モ不見
○鯉ノマツモノクヒタレ日ビシツケストナシ
十二ツノ文トミヘリトモモ不見

卜部糸圖 不比等

○大織冠錦足一 意美磨一 清磨一 諸魚モウリト部元祖

智治磨一 日良磨一 豐宗トヨムネ一 好真ヨシマコ一 兼延トヨノブ

兼忠一 兼親一 兼政一 兼俊一 兼康一 兼貞トヨサダ

兼茂一 兼直

大副侍從 大副侍從
右京大夫

兼名一 兼顯トヨノキミ

慈遍 大僧正南朝詔
兼雄 民部太輔從五上
兼好 左兵衛佐

以俗名為法名

「兼藤—兼益—兼夏—兼豐—兼熙—兼敷」

「兼富—兼名—兼俱—兼致—兼滿—兼右」

兼見—兼治

兼友—兼直

古くは兼并 向物物候

ついでに兼あふまき親 汲川神の丹ひちてあふく

新百二十八雜弄

和泉式部

大坂川乃百首之内

以題名案之内

ついでと兼あふまき親の丹ひちてあふく

「はまきくはうまふ日くは硯小ひひて心より

ついでゆくらうまふ日くは硯小ひひて心より

くれもあやあうう物々ううけき

此、テハ此草子ノ序分也序トハア、タノ義アリ

トモ緒也廊也トテ蠶ノイトク千又ハ堂へ入ニ

ツ廊へ入ル如ク其ノ書へ入ノ端アリ編集ノ心

ヲ慨略メアラハスヲ云也外ア、タノ義アリ

是も草トハ發端ノ辞ヲ以テ題号トスル也然

モ此草子一部ノ心ナリ

草ハ草氏トシテハハカコクサワラヒ草ナ

ははらぐトハサヒシキ也草トハカコクサワラヒ草ナ

六條宮ノ御撰ノ御撰物語ノ真字本ニ徒然トトモリ

用取ノ義

草ハ草氏トシテハハカコクサワラヒ草ナ

此は王公
卿大夫
士ノヲ
云々
云々
云々

ト云類也ツシツレノモ千アツカヒ草也

日夕ヒノヒトハ終ヒノヒ日也 日ヒノヒ夕ヒノヒトハ山路ヒノヒのヒノヒまヒノヒれぬ

時雨シゲレハ富士タカ乃高タカ絲タカの雪タカもタカあタカりタカけタカり

硯ヒシふヒシ何ヒシとヒシなくヒシ硯ヒシふヒシ手ヒシ習ヒシふヒシ人ヒシも

其ノ由リハノ名ヲカクニユヘニカクシ
ふヒシへヒシきヒシあヒシひヒシまヒシらヒシ孤ヒシ片ヒシ 風雅集二

心ユクまユクろユクろユクりユクゆユク里ユクトハユクウユクツユクリユク來ユクルユク也ユク心ユクハユク鏡ユクノユク如ユククユク万

境ユクウユクツユクリユク來ユクルト云古來ノ本説アリ

よりヒシあヒシりヒシ事ヒシトハ由ヒシ來ヒシモヒシナヒシキヒシムヒシサヒシトヒシシヒシタルヒシ事ヒシ也

花ヒシあヒシげヒシらヒシとヒシ水ヒシくヒシとヒシはヒシソヒシコヒシトヒシモヒシナヒシクヒシ也ヒシげヒシらヒシハヒシ付

字也 ソコハカトハウキツカヌアトシ

ハ助語也

原氏須
磨ヒシろ
こヒシはヒシわヒシり
多ヒシくヒシ

神ヒシ月ヒシ風ヒシのヒシあヒシまヒシのヒシあヒシけヒシとヒシがヒシあヒシりヒシるヒシ事ヒシ

物ヒシ々ヒシろヒシをヒシけヒシきヒシとヒシハ物ヒシグヒシルヒシワヒシシヒシテヒシト云也謙

退ヒシノ辞也 先ノ字ヲカクシ

一 此語辭也 此世ヒシ又ヒシ生ヒシ終ヒシてヒシハヒシ終ヒシらヒシげヒシりヒシへヒシきヒシ事

一 此句一段ノ大綱ヲ舉ル也 此句一段ノ大綱ヲ舉ル也

トハ發端ノ辞也

一 御門乃御位 是ヨリ正文段ニ入ル也

一 いヒシとヒシもヒシカヒシりヒシ志ヒシ 最ヒシモヒシ柔ヒシト云心ナリ 天子ノ御

事ヒシナヒシトハ申モ尤恐シアルト也 初ノ事ハハカシクモカクシ

竹の園生の末葉もろく 竹園トハ親王御事

此は王公
卿大夫
士ノヲ
云々
云々
云々

也皇孫ノ末末ニテト云心也

人間此種ならぬ。朝詠親王ノ詩曰

此花ハ是非人間ノ種。再養平基ノ一片霞

此花是非人間種。瓊樹枝頭第二花

一、人ハとふ子。ホメタル詞也。又上臈ヲヤンゴト

ナキ人ト云源氏桐壺ノ卷ニ、人ハとふ子

モ又ハあゝぬかとアリ花鳥ニカサことゝある

ハキハメテ上臈ノ品ヲ云トアリ無止ト書タリ

一、此人。攝政關白ヲ申也。一人一千人

也。一人一千ノヒト也。攝關 職奈鈔。執柄必蒙一座之宣。高故稱

古文苑卷三
梁王荒園
秋葉名叔
梁孝王漢
文帝子也
荒園苑名
左傳嘗有
荒園皆
音徒
備種種
天池水
固並馳道
西京雜記
梁孝王
荒園
有百靈
後人同此
以命

凡俗
日中
記

何事也。此條ハ左ノ書ニ、人ハとふ子ハ、

〇又、あゝぬかと、由之、梅貴介公子ノ言ハ、

孫ニテハハフシニタシト、アルトキハ分別アルヘキ

事也。羽林家ノ中少將ヲサシテ可心得歟

一、舍人ナトタ。ハルキハ、近衛ノ舍人即隨身也

隨身ノ下臈也。隨身ニ兩様アリ本府ノ隨身

ト小隨身トテアリ小隨身ハ何ノ家ニモツレラル

ハ也。御ルシニ不及也。本府ノ隨身ハ天子ヨ

リ無御免ハツレラサル也。御免規模也。隨身

御免ハツレラサル也。御免規模也。隨身

御免ハツレラサル也。御免規模也。隨身

百文元弟三
梁王荒園
叔業名叙
梁孝王漢
文帝子七
荒園苑石
九傳嘗有
荒園皆嘗
音徒
隋亦種
天池水使
國並馳道
西京雜記
梁孝王孫
荒園之中
有百靈
後岩神
岫九城志
陽郡有
梁孝王
荒園之中
亦園
後人因此
以命也

也皇孫ノ末末ニテト云心也。

一人間ハ種ナラぬ

〇史記五宗梁末王漢文帝子也景帝ノ弟也孝王國ヲ作テ五ノ宮觀ヲ作リ人々ヲ召テ王ノ行國トモ
朗詠親王ノ詩曰 亦脩竹苑ト云

此花ハ是非人間ノ種

再養平基ノ一片霞

此花是非人間種 瓊樹枝頭第二花

一 〇人ハとふ子。ホメタル詞也。又上臈ヲヤンゴト

ナキ人ト云源氏桐壺ノ巻ニ云んバとふ子

もよハめぬガトアリ花鳥ニヤサことらふ

ハキハメテ上臈ノ品ヲ云トアリ無止ト書タリ

一 一人 攝政關白ヲ申也 一人 一千人

也 一人 一千ノヒト也 攝關 職奈鈔 執柄必蒙一座之宣上而故稱

一 サラテリトハ今更ニ云モ事アタラシキト云心也。

一 タ、ウトモト子リナト給ハルキハ、エ、ヒトニ

凡人トハ攝家ノ外ハ皆凡人也サシトモ其子

孫ニテハハフシニタシト、アルトキハ分別アルヘキ

事也羽林家ノ中少將ヲサシテ可心得歟

一 舎人ナトタニハルキハ、近衛ノ舎人即隨身也

隨身ノ下臈也隨身ニ兩様アリ本府ノ隨身

ト小隨身トテアリ小隨身ハ何ノ家ニモツレラル

ハ也御スルシニ不及也本府ノ隨身ハ天子ヨ

リ無御免ハツレサレ也御免規模也隨身

〇史記五宗梁末王漢文帝子也景帝ノ弟也孝王國ヲ作テ五ノ宮觀ヲ作リ人々ヲ召テ王ノ行國トモ

天子ヨリ賜也唯家ニ注ク舎人ニ賜作ニテ大方定テ有

御スルニ及ズル

〇上人思
止メ
ル

ヲ供スル事大臣ト大將トニモ少シ分別有リツ

一ハフシニタシトハヨチフシタシト云事也放持ト云

一ナメカシヤサシキ心也放持ト云

一ソレヨリシモツカタ

ノ類也

一シタリカホナルホコリタル體

一ツカライニシ時ニアヒシタソカホニ我ヲユルシタ

ルヲカシキ也

清少納言カ書モ

清少納言枕草紙ニテモハ

ン子ヲ法師ニナシタランユソ心クルシケシタ、木ノ

ハシノヤウニシモヒタルユソイト、ヲシケシサウジ物ノ

アシキノウクヒテイヌルヲモウカギハ物モ上カシカラ

ン女ナトノ有所ヲモナドカイニタルヤウニテサシノ

ソカスモアランソレヲモヤスカラスイフニイテケンシヤ

ナドハイトクルシゲ也

清女納言脱後守清原元輔女二條院

イキツヒマウニノシリ時ニアヒ威勢ナトスルニ付

テモヨシトハニ又也ニウハ猛ノ字也ケハシタケシ

夕都の
是也
くま
ぬみ

心まみりしまのよとハ威勢ナトスル備し。のくまはせのよとハいかり

法げのあ躰スルラ云し。コシミトトハ人子トハ是也。コシミトトハ人子トハ是也。人よる教セラし。紫雲宗十八僧ハヨウハナキ。し。Pし。

清少納言カ書モ

清少納言枕草紙ニテモハ

ン子ヲ法師ニナシタランユソ心クルシケシタ、木ノ

ハシノヤウニシモヒタルユソイト、ヲシケシサウジ物ノ

アシキノウクヒテイヌルヲモウカギハ物モ上カシカラ

ン女ナトノ有所ヲモナドカイニタルヤウニテサシノ

ソカスモアランソレヲモヤスカラスイフニイテケンシヤ

ナドハイトクルシゲ也

イキツヒマウニノシリ時ニアヒ威勢ナトスルニ付

テモヨシトハニ又也ニウハ猛ノ字也ケハシタケシ

ヲ供スル事大臣ト大將トニモ少シ分別有リソ
一ハフ^{ハの字ハフハ字}レニタシトハヨチフシタシト、云事也。^{效持ト云}

一ナ^{美カシ}メカシヤサシキ心也。^{效業ハ美カシハ}

一ソレヨリシモツカタ 五位六位殿上人受領ナト
ノ類也

一シタリカホナル。^{目ロハシタハイト格ニ云カ也} 一ホコリタリ體。^{ホコリタリニ}

入シカスルコトハ... 一ハハナキナリ... 一ハハナキナリ... 一ハハナキナリ...

一法師ハカリ一是ヨリ別段ニシタル本有ワルサウ也

一清少納言カ書モ一清少納言枕草紙ニヲモハ

ン子ヲ法師ニナシタランコソ心クルシケシタ、木ノ

ハシノヤウニシモヒタルコソイト、ヲシケシサウシ物ノ

アシキノウクヒテイヌルヲモウカギハ物モエカシカラ

ン女ナトノ有所ヲモナトカイニタルヤウニテサシノ

ツカスモアラシソレヲモヤスカラスイフニイテケンシヤ

ナドハイトクルシゲ也。^{清女納言脱後守清原元輔女一修院}

イキヲヒマウニノ^{言字}シリ 時ニアヒ威勢ナトスルニ付

テモヨシトハニエ又也ニウハ猛ノ字也ケハシタケシ

夕、シキ體也行字ハアリク躰也草字ハ人ノ走
ル體也ト云東坡曰真生行、生草真ハ如
立行如行草ハ如走未有未能立能行而能
走也見事文類聚

げこ酒の飲者ク大ト云不飲者フ小ト云又在白氏文集日本ニテハ上ル下ルト

イニシヘノヒシリノ御代

此段入主タル人ニ儉約ノ道ヲス、ムル也

一ヒシリノ御代トハコ、ニテハ堯舜文武ヲサス

天曆ノ御代トハ申

ヘキ歟尚書帝範崇儉篇曰夫聖代之君為

乎節儉富貴廣大守之以約睿智聽明守之

以愚不以身尊驕人不以德厚而矜物芟茨

不剪采掾不劉丹車不飭衣服無文士階不

崇大羹不和非憎榮而惡味乃處薄而行儉

故風淳俗朴比屋可封此節儉之德也

又誠盈篇曰儉則民不勞靜則下不擾民勞

則怨起下擾則政乖

一キヨヲツクシ清キヨラ花麗ナル心也

一ハコロセキサマシタルトコロセバキヤウナル也

所狹也
ツモヨリ所ノ思ニヨリ
ツモヒツキ無イ也心ニクカ
此等ノラエト彼カ思フ処トノ両取アリ

所狹也 ツモヨリ所ノ思ニヨリ ギヨリタル心也

一 ツモヨリ所ノ思ニヨリ ヲモフトコロナクニユシ ツモヒツキ無イ也 心ニクカ
ラ又也

一 衣冠ヨリ馬車ニ一 是ヨリ九條殿ノ御辞也

一 九條 九条右丞相 師輔公也

一 遺誠ニモ 九條殿ノ遺誠トテ一卷アリ拾芥抄

ニモ有

一 順徳院 人皇八十四代後鳥羽院第三皇子

一 禁中ノ事トモカ、世給ヘル 禁秘抄トモ一冊

アリ

禁中御抄モ各ク

御拾物係

源氏物語ニ
精舎ニ
女ノみだに
物トハ
いふ
事トモ
あり

公ノ字ヲホヤケ遊仙窟ニハ天事ト書クモホヤケ
コト、ヨ、セタソ

老ヤリハハ心とあうまう物ノ暮しとまうりううる後成那

三ヨロツニイニシクトモ

スカタカタチ又ハ萬ノ藝能ニスクシタリトモ也

イトサウクシクトハサヒシキ心也爰ニテハタラ又心也

寂寞サウサシ 和名集ニ

あつた六郎ノ月物抄ノ人ノ事ヲ
わけておる所ノ事

五ノサカツキノ當ナキ キスノアル心也

御氏ニ
サ
ク
レ
ク

所狹也 ギコリタル心也

ラ又也

一ヲモフトコロナクニユシ ヲモヒツキ無イ也心ニクカ

一衣冠ヨリ馬車ニ一是ヨリ九條殿ノ御辞也

一九條 九条右丞相 師輔公也

一遺誠ニモ 九條殿ノ遺誠トテ一卷アリ拾芥抄

ニモ有

一順徳院 人皇八十四代後鳥羽院第三皇子

一禁中ノ事トモカ、世給ヘル 禁秘抄トモ一冊

アリ

禁中御抄モ各ク

一ヲホヤケノ奉リ物 天子へサ、クル物也

公ノ字ヲホヤケ遊仙窟ニハ天事ト書テヲホヤケ
コト、ヨマセタソ

老ヤノハハ心とあうやう物の名もさうさうさう後成那

ニヨロツニイニシクトモ

スカタカタチ又ハ萬ノ藝能ニスクシタリトモ也

一イトサウクシクトハサヒシキ心也 爰ニテハタラヌ心也

寂寞サウサシ 和名集ニ

あつたはるさうのしん

五ノサカツキノ當ナキ キスノアル心也

内氏ニサ
くしつ

撃
つるこころ
りへんあせ
老の死
キニシ
の神

韻府ニ玉卮無當桂華無實一當八底也

一 アフサキルサニソ(字)シモヒニタレソ(字)コナタカナタニ思ヒニタル

、也ユキナ往サユキナ來サユキナ也ハ雲抄ニトスルモカクスルモ

也源氏ハ、キ木ニトアレハカ、リアフサキルサニテ

胡シカリトテトスレハカ、リカクスレハアナイヒシラヌア

フサキルサニ

一 シカシケレヤサシキ心也ホメタル詞也

夕顔卷ニナキ給サニイトヨカシ世俗二人ヲ嘲哂

メゾカシキト云其ウラ也

一 ヒタヌラヒトヘニ也

此處三種ノ有説也日本ニテ四十ヲ為

老始ト云不馬ノ年而死スルヨキト云説アリ只此ハ凡人ノ思ハ者之ニ年ヨメリ

老則數般歎心且心又思而不覺スルハ賢聖如釈迦老子孔子者七十餘

歳イキタルハ不覺之善好モ八十歳モイキタルハ色ノ丑ノ難ツヘテカツマ

命ト長則命ノ長ニシテ故ニ丑同ヲ渡リテラハヨミタルニシテ命ハ

五福ノ一ツハ何有無ハ命ノ長トシテ命ノ長トシテ命ノ長トシテ命ノ長トシテ

命ノ長トシテ命ノ長トシテ命ノ長トシテ命ノ長トシテ命ノ長トシテ命ノ長トシテ

行跡思

ヒ合スヘキ也前三段ニ大カク人間界ノアラホ

シキ事ヲイツクシ此段ヨリ後世ニウツル次第

眼ヲ付ヘキ也

韻府ニ玉卮無當桂華無實一當底也

一アフサキルサニシモヒニタレコナタカクニ思ヒニタル

也カナシメ往サマ來サマ也ハ雲抄ニトスルモカクスルモ

也源氏ハ、キ木ニトアレハカ、リアフサキルサニテ

胡シカリトテトスレハカ、リカクスレハアナイヒシラスア

フサキルサニ

一ツカシケレヤサシキ心也ホメタル詞也

夕顔卷ニナキ給サマイトツカシ世俗ニ人ヲ嘲哂

メツカシキト云其ウラ也

一ヒタスラヒトヘニ也

一タハシ威タハフル、也風流士ト書テタワレヲトヨメリ

引秋クレハ野ヘニタハル、女郎花イツレノ人カツマ

テニルヘキ萬葉集、タハシト人ハイヘトモニタシラスリシカクヤリ儼ノ

後ノ世ノ事心ニ上句ハ道念ニ志スラ云下句ハ仏智ニ明ナ

此段尤殊勝也源氏カホル大將ナトノ行跡思

ヒ合スヘキ也前三段ニ大カタ人間界ノアラニホ

シキ事ツイツタシ此段ヨリ後世ニウツル次第

眼ヲ付ヘキ也

五
フカウニウシヘニシツミシ
不幸也

別本ニフカウウシヘニトアリ深ノ字心也ワルサウ
也。不幸ノ字タルヘシ此段西行カ作ノ選集抄

ヲ以テ書タルト見タリ

一フツ、カニ イヤシキ心也 源氏若菜ニフツ、カ ぼつ、ヨキ

一サルカタニアラ、ホシ、ヤサシキカタニアラ、ホシキ也

一顯基ノ中納言 事後冷泉院 西宮左大臣 高明公ノ孫 カウケイ

大納言俊賢卿ノ一男也官ヲ上ニ書下ニ書

事差別有ヘシ自書ニハ官ヲ上ニ書也他ヨリ

其人ヲウヤマイテハ官ヲ下ニ書事アリ必定ノ

念心集三云顯基
云罪ナクテ罪ヲ
ハテシ配ス月ヲ
ミヤトアリ

事ニハアラス自然ノ義也

一配所ノ月 配所トハ左遷ノ所ヲ云也

選集抄ノ四ニ曰昔中納言顯基ト申人イマソ

カリケリ後冷泉院ノ御時朝ニツカヘ給テ寵愛

イヤメツラカニシテヲホクノ人ヲコヘナントシテニシ

ナノ位ニノホリ給ヘリケルカ常ハ林下ノトホソヲ

モトメテ世ヲノカル、心フカクナンヲハシケルナメリ

シカルヲ心ハナル、縁ノイニタツキヤリ給ハサリケル

ニ御門ハカナクナラセ給ヒシカハ中納言天台山人

ニノホリテカシラヲロシテ大原ト云所ニサニ行ヒ

スレシテイニツカリケリ朝ニツカヘシソノカクヨリサハ
明暮ハ哀ツミナクシテ配所ノ月ヲミハヤト渡ヲナ
カシ古墓イツレノ世ノ人ソ姓ト名ヲシラス年年
春草ノニシケシト詠シテケシカラス渡ヲナカシ給ヘ
ルヲハヤノ一サテ中納言草ノ戸サシ閑ニシテイ
ヒシラス目出往生シ給ヘルト遊心集ニノセラレ
テ侍シ云

我カ身ノヤンコトナカラニモ一 此段子孫アリ

テ無益ト云事ヲ述タリ

子ヲ思フ心計ニホトサヒシノ心更ニ出カテニスル

一ヤンコトナカラニ 無止 上ニ之ヘタリ

一女ナトイフモノナクテイ今ニ子トイフモノト有是

シカルヘキ也此段子孫ナカラニ事ヲ願ホトニ也

又下卷ノ五十四段ニ女トイフ物コソコノモノ

ツニシキモノナレトアリ

一前中書王 中務兼明親王延喜ノ御子也高

名ノ能書也 後中書王トハ具平親王ヲ云

也

一 九條ノ太政大臣 伊通公也

一花園左大臣 有仁公也後三條院孫輔仁親王ノ御子也

一御ソウタエシユトヲ ソウ曾ノ字也子孫ノ事也 曾 會云 曾ハ重也自曾祖至無窮皆得稱曾

孫ト 一染殿ノヲト、大政大臣良房御諱ハ忠仁公ト云也清和天皇ノ外祖父也染殿ノ后ノ父也

一也 一世繼ノ翁ノ物カタリ 大鏡ト云書也文徳天皇ヨリ後一条院ニテ十四代百七十五年ノ

間ノ事帝王并攝關大臣等ノ來歴ヲ物語ノヤウニ書アラハス書也其物語ノ上卷ノ中程ニ染殿ノ大臣ノ子ノヲハシマサ又事ヲ書タリユクス又ハマサリタルヨシアリ世繼ノ作者ハ為業法名 寂念也

一聖徳太子ノ御墓ヲカ子テツカセ 流九ノ 用明天皇第一御子也 有六名鹿戸上宮ハ

耳 聖徳 豐耳 耳聰是也傳在元亨釋書ニ 平氏 太子傳云御陵ニ返有御廻其後御

陵御前ニテ御輿ヨリ下給勅御墓ヲ曰汝此

コノツキキレハ 堀切ノスレハ軍 陳等ノ類ナリ 往還ノ路ニモ ナラズ

御墓ノ山先ニモノ御墓山在大和亦在河内秋富小川ハ法隆寺内

墓所ノ路ノ

子孫ノハ

陵ノ貌神妙ニ仕四方ニ廣ク路ヲ切廻セ朕意
趣有二一者爲大行道之時令無煩二者吾
子孫爲令無日本相續事也云

タタシ野ノ露ギユル時ナク
アタシ野ハアナカキ名所
ニ歌ニモヨム也
ニ承曆ノ歌合ニ嵯峨野ヲ過テアタシ野ニテユキ
ケンモアキキナシト云リ是ハ名所タルヘキ歟私云

後頼朝
アタシノ
秋ノ末
アタシノ
ヨホノ
ヤ玉川ノ
水

嵯峨ノ奥ニシクマシタラト云墓所アリ此所ナル
ヘシ
縁古今一兩行 誰上ニモトニハキヤハアタシノ
ノ事コトニスルハ有

一鳥部山ノテフリ立サテテノミ
ケフリト見ヘカラスタ、煙ト斗心得テヨシ鳥部
山トアタシ野ト對メ書タリ露ニ煙ヲ對メ畢竟
ハ世間常住不變ナル物ナラハ物ノ哀モアルニ
シキト也
拾遺ニ鳥部山谷ニケフリノモヘタハハナリニ
我トシラセ

命アル物ヲニルニ
是ヨリ莊子逍遙篇人心也
カケロフノタヲニキ
夏ノ蟬ノ春秋ヲシラヌ
夏ノ蟬ヲ夏ムシトアル本ナリ

前大徳
正徳
夏ノ蟬
夏ノ蟬
夏ノ蟬

カケロフ
カケロフ
カケロフ

極絲蟬游蜻蛉陽焰等ノ説アリ
又草ヲカケロフト云義モソリ爰ニテハ草ニ見ヘキ
歟
引 夕暮ニ命カケタルカケロフノアルカナ
キカノ世ニモスムカナ

莊子逍遙ト云小年不及大年爰ヲ以知其然
也朝菌不知晦朔蟪蛄不知春秋此小年也
注云朝菌大芝也亦名日及生於糞土暮生
見日則死彼但知有朝暮而已安知有晦朔
也蟪蛄寒蟬也春生夏死夏生秋死不見四
時之全

カケロフ朝菌ニトリ蟪蛄ヲ夏ノ世ニトリテ見ヘキ
也但又カケロフヲ遊絲 蟬游ノ類ニ見ヘキナラ

ハ朝暮ト春秋ト二目ヲ付ヘキ也
一ヨナワ 八雲ニ事外也トアリシモレキト云心カレシ

ノトキレハ
久シキト云

河海ニ無越閑雅幽玄ノ義也カキリモナフト云
心也

一チトセテ過ストモ一夜ノ夢ト云
佛ノカワラシム年ノウモレシメトヒ命ニカキリアリトモ山町

衆人慕之安不亦悲乎ノ心也

一ニニクキスカヤ 老衰トタルスカヤ也

一命ナカケレハハキヲホシ

四ノミナラズト云

ナカレト何イんらん云々
キラミルハ命也ケリ

莊子天地篇二 多男子則多懼富則多事
壽則多辱是二者非所以養德也

夕ノ日ニ子孫ヲ愛シ

朝露貪名利夕陽愛子孫白氏文集秦中吟

一サカ行スエ サカへ行スエ也

今コソアレ我モ昔ハヲトコ山サカ行時モアリコシ

物ヲ イ本ニサカ行スエトノリワルシ

一ヒタスラ 一向ニト云義也上ニモ見タリ

（Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like 世ノ人ノ心トトハス事トト）

世ノ人ノ心トトハス事トト

源氏手習二人ノ心トトハサムトテイテキタルカリ

ノモノニヤトウタカフ

海ニ假色迷人猶若是真色迷人應過此

白氏
古塚

一衣裳ニタキ物ストシリナカラ

為若薰衣裳君聞蘭麝不馨香為君事容飭

君見金翠無顔色 白氏 大行路

一子ナラ又ニホヒ 又物ノイハレ又カウハシキ句也

八雲ニエナラ又ハシモシロウユワナルト也

源氏二月も
えふふ
注ニタ
ラ又タ

是編成者 或謂居士 方持三人 部被無明 綱迥牙為 是兒戲哉 居士以白雞 言也蓋六 欲界未抵 杭天且色 為身本愛 為色根由 色生身 復生愛 浮沈展 轉定寧 有解脫 今夫物有 會生而端 動者其亦 情抑何身 威又極之 至於康苑 仙以累劫 之功見宮 練一旦而 失其神足 况其它哉

一心トキ又キスル 枕草子ニヨキタキ物々キニヒトリ

入シタルト心トキ又キスル物ノタクヒニ入也

一クメノ仙人ノ物アラフ女ノハキノ

父米仙者和州上郡人入深山學仙法食松

葉服辟荔一旦騰空飛過古里會婦人以足

蹈脫衣脰甚白忽生染心即時墜落ス云々

元亨釋書

一外人色ナラ子ハサモアランカシ

外ヨリカサリマルカリノ色ナラヌト云義也

九女ハカニノ

一ケハヒ 氣ケハイ

河海 日本記 形勢新猿樂

訛景氣

一ウチアルサニモ 常任體ノ心也 夕、アルサニ也

水鏡ニモウチアル人ニ夕ニトアリ平人ニ夕ニト云

義也

一ウチトケタルイモ子ス イモ子スハ子モ子ス也

イトハ子ノ心也イギタナキナト云ハ子コイ事也

君コフル渡ノカ、ル冬ノ夜ハ心トケタルイタニ子

ラレス

身ヲキシトモ思ルタエス絶字也タエヘクモアラヌワサ
身命ヲモ不捨 堪忍スヘクモアラヌ事ニモ
能カンニンスルハ只色ヲ思故ソト也

愛着ノミチ 愛シ執着ノ道也

一六塵ノ 樂欲ラクヨクトハヨメスケウヨクトヨムヘシテ

ウハ子カウ也 六塵トハ 色聲香味觸法 眼耳鼻舌身意

一獸離シツヘシ エリトハイトヒハナルヘシト也

カノニトヒトハ 色欲ノニトヒ也

引イカ斗戀ノ山チノシケ、レハ入トイリヌル入ニトフ

ラン

一 家居ノツキぐシクアラニホシキリー

一 ツキぐシクトハ サ有ツヘシキ也サアルニシキ事ヲハ

ツキナキト云ニテ心得ヘシ

一 イメカシクキララカナラ子トトハウルハシクニカキタテ

タルヤウニハマラ子ト也 源氏 中ノイハルニミ ぼヤサシキ

一 ワサトナラ子トトハトリツク口ハ子トモ也ワサトナラヌニ

ホヒナト云ル類也 スノコ 笠ノ子

一 スイカイ スイカキ也 透墻

一 テクト 道具也 調度ト書 調度掛ハ鳥帽子ノ緒シ役スル者ハエ 掛イノ人ト云

一 草木マテ心ノマ、ナラストハワサトナラ子ト、云タル

ウラ也枝ヲタメ葉ヲスカシ草木ノ自然ナラ又サ
也

一 大カタハ家居ニユソユトサハヨシハカラルシ事條抄
是レ上ヲ決シ下ヲ起ス辞也

一 後德大寺ノヲト、實定公也母ハ俊成卿ノ

妹歟

一 西行 俗名佐藤兵衛義清 鳥羽院ノ北面

也歌道ノ權貴也

井蛙抄曰 德大寺ニハ歌ノ間ト云所有寢

殿ノ西ノ角ノ間也 是後德大寺左府西行ニ

被對面ケル所也

一 廿ハカリニユソトテ ソレホリニユソト云心也

一 綾小路ノ宮ノヲハシマス殿名小坂殿

一 德大寺ニモイカナルトト後德大寺殿ヲ西行カ

ソシリテソトシタルヲマスケテ書タリ殊勝ト云

神無月ノ比

此段前段ト同類也 柑子ノ木ヲカコイ籠タル

ト德大寺殿ノ繩ヲハラレタルト皆家居ニ付テ

事サレヨハカリタル也

一粟柚野 醍醐ノ邊也

シツルス 小西極まで

引サレ救ノクルスノヲノ、萩ノ花千リナン時ニ行テ

手ムケシ 凡後とてさす葉ついでへくさうさう栗栴のし野の萩の境をよ

一関伽棚ニ 関伽ハ水ノ梵語也 阿伽トモ

一枝モタワニ 枝ノタワム事也

シテリテニハヲチソシ又ヘキ秋萩ノ枝モタワニヲケル白

露

柳卷ニキの月の影りわりのあめそしちりかきしり
式ナシ心ナラン人ト シメヤカ静ハ

此段ヨキ友ノ内ニテ同シ心ナルト少シタカイ女
ルトヲ評論スル也タトヘハヲナシ心ナルト又ヤカナ
ル心ノ友トハ孔子ト顔回トノ如キ是也論語ニ
子曰吾與回言終日不違如愚又子曰語之
不渚者回與子曰回也非助我者也於吾言
無所不説

一ウラナク 表裏七ナク也 心慮ニテ為サレタリ

一露タカハサラン 終日不違ノ心也 ハシラフ侍人

一タカヒニイハンホトノコトヲハ 助我友也 難漢ノ時イ

一ケニハスヨシカコツカタモ 是ヨリ畢竟同心シ心ナ

ハ

ル友ヲ貴ル義也

カコツハトヤカクヤト互ニ云アラソク心ナルヘシ是

隔心ナラ又故也

一ヨシナシコト 由來モナキムサトシタル事也

一我トヒトシカラサラン

引思フ事イハテソタ、ニヤニ又ヘキ我トヒトシキ人シ

ナケレハ

口由氏ニニマカハルトラフモトニキナリ

一まあめやいー 真実也此カラ亦多人ノ真実ノ心友云、ワヒルキモノウキ
一ワヒルキヤ此ヤハ疑ノヤニ非ス決死ヤ

吉 口トリ燈ノモトニ

迂^{司馬}更平日讀書上師聖人下友群賢 獨余

園記狄仁傑曰黃卷赤軸ノ中對聖賢

三江任君子崩博極群書尚友古人ヲ 山

谷序

一之又世ノ人 上古ノ聖人賢人也義理右見タリ

一コヨナク 無超ト書ユル事ナク也 八雲ニハルカ

二ト云心也

〇松風巻ニ「こゝろありや知れぬ心ありふらふ心ありあり」

一文選 六十卷アリ梁ノ昭明太子撰

一アハレナル アツハレナル也

一向氏文集 白居易カ文集也十帙七十卷

長慶年
中集
故云尔

白氏長慶集ハ五帙都五十卷長慶集ハ前也
後二白氏文集ト成テ十帙七十卷ニスル也白
樂天カ詩文ヲ集タル書也浙東元稹微之序ス
一老子ノコトハ 老子經 上下 道德經トモ云也
道經德經上下カハルカ
一ナンクハノ篇 南華經ハ莊子ノ事也凡三十篇
アリ老子ノコトハ南華ノヘントコトハ二篇ト對メ書
タリ
一コノ國ノハカセ 八カセトハ博達ノ士ト云心也ナ
カキ文章博士ノ官カキラズ此國ノ書トハ本朝文

粹類ナルヘシ兼好カ文選白氏文集老子經
莊子等ヲ以テ書タルトヘタリ心ヲ付ヘシ

此の我々の情士ノ名モ右ノ八哀トト合メタル故ニ和華ノ夏ヲカケリ
和歌コソナヲシカシキ物

ナヲノ字ニ吟味アリ上ノ段ノ文選文集ナトヘア
タリテ見ルヘキ也
一ツツロシキ猪ノシモ

八雲抄ニ寂蓮法師カ云ケルハウタノヤウニイニ
シキ物ナシイノシ、ナトイフツツロシキ物ヲモフスイ

ノ床ナトイヒツレハヤサシキナリニシテヤサシキ物ヲ

ツソロシケニイヒナス無下ノ事也

三ノミハ世ニナシモヤラシ此玉リヲワルキト批判シタカクハ西ノ説トモ思ハカラスケニシテ

一貫之カイトニヨル物ナラナク第一ノ奇ハアリ後ハ白ク多ク古今第九霸旅部アツマヘマカリケル時道ニテ

ヨメル系ニヨル物ナラナクニ別路ノ心ホソクモ

ヲモホユル哉 貫之

一古今集ノ中ノ歌クツ

一源氏ノ物語ニハモノトハナシニトツカケル

貫之カ歌ヲトリテ源氏物語ニハ物トハナシニ此貫之カ歌ヲトリテ源氏物語ニハ物トハナシニ

ト書也源氏總角ニ我ナシタマハ玉ニヌカナントウ

チスシ給ヘルイセノシモカウユソハアリケメトヲカシウ

聞ルモウチノ人ハキ、シリカホニサシイラヘ給ハンモ

ツフマシウテ物トハナシニトカツラユキカ此世ナカ

ラノワカシヲタニ心ホソキスキニヒキカケケムヲナトケ

ニブルコトソ人ノ心ヲノフルタヨリ也ケルヲギモヒ

出タニフ

一新古今ニハノヨル松サヘ峯ニサヒシキ

引冬ノ來テ山モアフハニ木葉フリ殘ル松サヘ峯ニサ

ヒシキ 祝部成仲カ歌也

一家長西御帝皇太子高御公ノ子孫後鳥羽院ノ時代和歌所ノ闔閣タリ

一人也

系圖未詳追而可考之

一 歌ノ道ノミイニシヘニカハラヌ

八雲抄ニ西行カ夢ニモイツレノワサモヲト口ヘ行

ニタ、此道ハカリ末代ニ絶ヘカラストニヘタリトイ

ヘル

一 イサヤスミ不知ト云事也イニシヘニカハラヌト云事ヲ

ハシラスト也

一 歌枕 源氏玉カツラニヨロツノ草子歌枕トアリ

花鳥二歌枕トハ名所ノ歌ヲアツメタルヲイヘリ

能因法師カ五代集ノ歌枕ト云トシユ、ニテ公詞

ノツ、キ枕詞ナトノ事タルヘシ

一 スナホニシテ 直スナホ 淳 同

一 梁塵秘抄ノ郢曲 後鳥羽院御作也

神樂催馬樂ナトアツメタル書也 後成恩寺殿

兼良公注アリ

一 コトクサ 言雜コトクサクノカナ清 言種

圭 イツクニモアレシハシ

此段霸旅ノ中ニテ人ノタシナニ心七千ヲ書タリ

イヤナラン今
イヒヤラン今
イヒヤラン今
イヒヤラン今
イヒヤラン今
イヒヤラン今
イヒヤラン今
イヒヤラン今
イヒヤラン今
イヒヤラン今

去神樂コソナマカシク

神代

公事相源抄ニ

内侍所ノ御神樂

主上行幸アリ先典侍尚侍オノカミイルスケハワラハ
二人ニ木丁キチノサ、セ内侍所ニ行幸ナリ又シハ
御拜刀ミツ自祝ミツナト申此コノアイタ所作人南殿ノ西
ノカヌニテ物ノ音アハス内侍所ノ二ハニ主殿察
マンヲ引官人庭燎ニヲタク本末ノ座ニ行ニツ
ケタリ近衛ノ召人ウシロニアリ及長スナカエニヨコ座

ふまめーくハニエカドナ心アリ生ノ字ヲ各サカシナラヌツツサヌ所見

○俣以ニモアハ詞ノカスカニキヤヤテハ

也次第第二庭ニツク人長ス、ニテヒサツキナトシカセ
鳴高シナトイマシメテ次第ニメス笛篳篥本末ノ
歌和琴次第ニヒサツキニツキテツカウツル人長
ヲホルニシタカイテ笛和琴拍子本ニサフラス末
ノヒヤワシヒキリキハ末ニツク和琴ハ位ニヨラス本
ノ座ノ上ニ着ス鈴鹿ヲタフ故トカヤヨリアヒ庭
火モトスエハテ、人長カヘリ入採物ハテ、韓神
ノ拍子アケテ後人長タ干テカナツル其後勸盃ア
リカラ神ハテ、又ス、ミテサオノカミイノ後者也ヲノコメ各座ノ
末ヨリス、ミテヒサツキテカヘリツク薦枕ヨリ千

歳早歌ナトハテ又レハホシヲホセラル筈ヒチリキ音
トリテホシニ首ハテ、朝食^{アツカイ}其駒ヲウタフ常ノコト
シ禄ヲ給フ臨時ノ御神樂ハ秋ノ末ニ行ナレハ
名ハ臨時ナレトモ今ハサタマレルコトニ成タリ公
卿ノ所作也御所作ナトアル時ハ星ヲホセラル
、時御簾ヲウコカサル御笛ナレハヤカテ子トリトテ
仰ラル、モ使アリ臨時ノ御神樂ニハ禄ナシ事ハ
テ又レハ本殿ニ還御ナル此御神樂ハ一条院ノ
御時ヨリハシテ山隔年ニシユナル承保ヨリ行ハ
ル年ノ事ニ成ニケリ壽永ノ亂ニヨリ内侍所西

國ニ渡御ナリテ二年シヘマテコトユヘナク都ヘカヘ
リ叅シ時ハ三箇夜ノ御神樂ナトアリキツレハ別
シテ臨時ニ行ハル大カタ神樂ノヲヨリハ天照太
神ノ天ノ岩戸ヲサシテユモリ給ヒシ時諸神ノイノ
リ申ケレケルニ天^{アマテラス}鈿目^{ニギハヤヒ}命ニサキノカツラヲカツラト
シヒカケテ手スキニシテウタヒマヒ庭火ヲタキシイニ
シヘヨリハシテル事ナレハ我朝ノ風俗神代ノ縁
起他ニコトナルヘキニヤ

和琴^{ワコト}ニハアツコトモ云

山寺ニカキコモリテ佛ニ則不寂

大人ハヲノレヲツ、約ノ字ヤカニシテ

此段ノノレカ身ニ花麗ヲセスメキコリヲシリツケ
儉約ニセヨト也

一ムカシヨリカシコキ人ノトメルハマレ也

許由ト孫農ト二人ヲ舉テ例トスル也顔面閑

子騫等ノ賢人ニツシイヤシキ類不可勝斗也

一許由ト云ケル人ハ

許由隱箕山以手捧水飲之凡遣一瓢得以

取飲飲說掛於樹上風吹歷歷作聲尚以為

煩遂去之見テ事文類聚隱逸部

一ナリヒサコフクヘ也ヘウタンノ事也

瓢和名集ニ祭利比佐古斟水器也

心ノウチス、シカリケン心中キレイ也ケン也

一孫農ハ冬ノ月ニ

孫農字元公家貧織席為業明詩書為京兆

功曹冬月無被有藁一束暮卧朝収蒙求

一モロコレノ人ハ

唐ニハ賢人ヲ貴テシルシト、ムルニコレヲノ人トハ
今日本ニハカタリモ傳ヘニキレキトハキシメテ云々

五折フシノウツリカハルコソ

此段枕草子源氏物語ナト所クヲトリテ書タル
也幻卷ニ別メ十二箇月ノ哀ツカ、サス書ノセタ
リ此段ニモ十二箇月ノ風景ヲ略メ載タリ

一物ノ哀ハ秋コソニサレト人ユトニイフメレト

引春ハ只花ノヒトヘニサツ斗物ノ哀ハ秋ソニサレル

源氏ありて... 數ニサリヤ州

ヨムし惣ジテアカサタナノ字ヲ比自ハ子テヨムモ
一ヤ、春ノカシニ月セヤウク春フカクナル也

一ハナタチ花ハ名ニコソト

名ニコソツヲヘレハ 名ニコソツ立タル也

引廿月待花橘ノ香ヲカケハ昔ノ人ノ袖ノ香ソスル

引郭公花橘ノ香ソトメ鳴ハ昔ノ人ヤ戀シキ

一ナヲ梅ノ白ヒ 花橘ノ昔ヲ忍フツト成事ハ勿

論ナレトモ猶梅ノニホヒニ昔モ戀シキ也

唐ニハ賢人ヲ貴テシルシト、ムルニコレヲノ人トハ
今日本ニハカタリモ傳ヘニキレキトハキシメテ云々

折フシノウツリカハルコソ

此段枕草子源氏物語ナト所クヨトリテ書タル

也。幻卷ニ別メ十二箇月ノ衰ヲカ、サス書ノセタ

リ。此段ニモ十二箇月ノ風景ヲ略メ載タリ

一物ノ衰ハ秋コソマサレト人コトニイフメレト

引春ハ只花ノヒトヘニサク斗物ノ衰ハ秋ソマサレル

引春秋ノ争ヒニ昔ヨリ秋ニ心ヨス人ハ數マサリヤ

一鳥ノコエナトモコトノホカニ

是ヨリ正月ノ事也。コトノホカニト書タル面白

一ヤ、春フカク二月也ヤウク春フカクナル也

一ハナタチ花ハ名ニコソ

名ニコソヲヘレハ名ニコソ立タル也

引廿月待花橘ノ香ヲカケハ昔ノ人ノ袖ノ香ソスル

引郭公花橘ノ香ソトメ鳴ハ昔ノ人ヤ戀シキ

一ナヲ梅ノ白ヒ。花橘ノ昔ヲ忍フツト成事ハ勿

論ナレトモ猶梅ノニホヒニ昔モ戀シキ也

名ニコソ
立タル也

名ニコソ
立タル也

一 色ヨリモカコソ哀トヲモホユシ誰袖フレシ宿ノ梅ソモ
 一 梅ノ花アカ又色カモ昔ニテ同シカタミノ春ノ夜ノ月
 一 梅花誰カ袖フレシ句ヒソト春ヤ昔ノ月ニトハヤ
 一 梅カ香ニ昔ソトハ春ノ月ユタヘ又影ソ袖ニウツセル
 一 山吹ノキヨケニ藤ノヲホツカナキサマ
 一 此ニ色ノ様ヨク心ヲ付テアリクトカケリ殊勝ノ
 一 詞也
 一 灌佛ノコロ 是ヨリ夏ノ事ヲ云ソ
 一 灌佛トハ釋迦如來俱毘藍城小云所ニテ四月
 一 八日ニ生レ玉フニ天龍下テ氷ヲソ、キ釋尊ニア

國史云延喜七年四月八日請佛師傳
 大律師位靜安於清涼殿始行灌
 佛事

毎々四月八日ニ佛誕
 生ノ骨ヲナニニ奉アリ日本ニハ推古天皇ヨリ

日毒アハ
 レモ
 春ノ花
 名残
 思ふ
 存
 人ノ
 サモ

一 祭ノコロ 賀茂ノ祭也 四月中ノ酉日アリ
 一 欽明天皇ノ御宇ヨリ始 公事根源ニ具也
 一 アヤメフク比 天平十九年五月ヨリ詔有テ百
 官諸人迷ク菖蒲ノカツラ懸ヘシカケサルモノハ宮
 中ニ入ヘカラスト定メラル 公事根源ニ見
 一 歳時記曰午日楚人採艾掛於戸上以禳毒
 一 氣今掛蒲柳是也

色ヨリモカコソ哀トヲモホユレ誰袖フレシ宿ノ梅ソモ
 梅ノ花アカ又色カモ昔ニテ同シカタ之ノ春ノ夜ノ月
 梅花誰カ袖フレシ句ヒソト春ヤ昔ノ月ニトハヤ
 梅ノ香ニ昔ソトハ春ノ月コタヘ又影ソ袖ニウツセル
 山吹ノキヨケニ藤ノヲホツカナキサ
 此二色ノ様ヨク心ヲ付テアリクトカケリ殊勝ノ
 詞也
 灌佛ノコロはつふつ是ヨリ夏ノ事ヲ云ソ是は生んぬ
 灌佛トハ釋迦如來俱毘藍城小云所ニテ四月
 八日ニ生レ玉ヲニ天龍下テ氷ヲソ、キ釋尊ニア

日毒アハ
 シモ
 春ノ花
 名残
 思ふ
 春ノ花
 人ノ心
 サモ

ヒセ奉リタリ其義式ヲ毎年四月八日ニ佛誕
 生ノ體ヲナシテ行事アリ日本ニハ推古天皇ヨリ
 始ルト也公事根源ニ詳
 一祭ノコロ 賀茂ノ祭也 四月中ノ酉日アリ
 欽明天皇ノ御宇ヨリ始 公事根源ニ具也
 一アヤメフク比 天平十九年五月ヨリ詔有テ百
 官諸人迷ク菖蒲ノカツラ懸ヘシカケサルモノハ宮
 中ニ入ヘカラスト定メラル 公事根源ニ見
 歳時記曰午日楚人採艾掛於戸上以禳毒
 氣今掛蒲柳是也

拾遺記
 楚人採艾掛於戸上以禳毒氣今掛蒲柳是也

夕ハツトキ
夜半ニテ
ホツラアケ
スハハモミ
ノ水鶏ノ

一水鶏ノ夕、夕、夕トハ鳴也。又苗見山鳥の夕の鳴也

引一夕宵ニウキテ夕、夕水雞哉夕カ門指テ入ヌナ
ルラン。何れ源頼家御下
無きすしれきく史略のありしと辨明之後九とありり

源氏明石ニ春秋ノ花モミ千人サカリナルウキハ

ソコハカトナク茂レルカケトモナメカシキニ水雞ノ

ウキ夕、キタルハ夕カ門サシテト哀ニツホユ

一アヤシキ家ニ夕顔ノ

夕貌卷ニカノ白クサケルヲナン夕カホト申侍ル花

ノ名ハ人メキテカウアヤシキ垣子ニサキ侍ルト申

一蚊ヤリ火。此れ院
朝の火のけのめりハ
青のあつたつ心おとま
おろしすしぬよをゆめ
のむら

引シツノシカ垣子ニウツルカヤリ火ニス、ミワツラフ夕

一暮哉。意ハ
幾回揮扇磨難去
縁被黄胸即便除

一六月後。公事根源ニ云天武天皇ノ御時ヨリ

始ル。八雲抄ニ曰。六月後邪神ヲハラヘナゴ

ムル故ニナユシト云也。河邊ニイクシタテアサノ葉ナ

トニテスル也。夕又夜スル事也。後撰ニ賀茂川ノ

ミナソコ清テ照月ヲ行テミニトヤ良バラヘスル題

ハミ十月ハラヘシ三河原ニカカリ出テ月ノアカキヲ

ニテトイヘリシカルヲ六月晦也ソコスミテテル月如

何尋ヘシトアリ後考之賀茂川ノミナ底スミテノ

後撰ニ
賀茂川ノ
水底ニ
照月ヲ
行テ見
ヤ夏夜ハ
スル六月十
ミヨソツ也
ミンキハソキ
スツルミ

歌ヲ定家郷ノ注曰之十月ハラヘ明月之由人
疑之或本多止古人六月之比必出川原臨
稜又納涼及絲竹之遊及詩歌之興恒例也
不限晦日是稱皆月稜長元之比或人記御
倉小舎人來可參皆月稜之由催之件稜六
月十三日也

一七夕ニツルコソナメカシケレ凡はナルコト公事根源ニ曰乞

巧算トモセ七夕祭トモ云也香花ヲソテへ供具ヲ
調テ庭上ニフミヲ、キ棹ノハシニ五色ノ糸ヲカケ
テ一事ヲ祈ルニ二年ノ内ニ必叶ヘリト云リ此

口祝子子なほとふこまう
記曰七月初七夜酒
牽牛織女相會守夜
漢中有奕々白氣光
者使拜願乞富乞壽

無子者乞子惟得乞一不得兼求三年乃得
見于事林廣記

- 一ヤウク夜サムニ八月也秋の暮なり
- 一秋ノ下葉色付ホト九月也秋の暮なり
- 一キボシキ事イハ又ハ腹フクル秋の暮なり

大鏡ノ詞也ヲボシキユトイハ又ハケニソ腹フクル

秋の暮なり
秋の暮なり
秋の暮なり

歌ヲ定家卿ノ注曰之十月ハラハ明月之由人
疑之或本多止古人六月之比必出川原臨
稜又納涼及絲竹之遊及詩歌之興恒例也
不限晦日是稱皆月稜長元之比或人記御
倉小舎人來可參皆月稜之由催之件稜六
月十三日也
風俗ナリシ

公事根源ニ曰乞
也香花ヲソテへ供具ヲ
ハシニ五色ノ糸ヲカケ
内ニ必叶ヘリト云リ此

故乞巧トモ云也風土記曰七月初七夜酒
掃中庭施几筵設酒脯牽牛織女相會守夜
者咸懷私願或曰見天漢中有奕々白氣光
曜五色以此為微應見者使拜願乞富乞壽
無子者乞子惟待乞一不得兼求三年乃得
見于事林廣記

一ヤウク夜サムニ八月也
萩の事アリ
一萩ノ下葉色付ホト九月也
萩の事アリ
一キボシキ事イハヌハ腹フクル

大鏡ノ詞也ツボシキコトイハヌハケニソ腹フクル

家道は師
師も
小師草
依まか
三三上
あま
師合

心千シテルトアリ
ナキトハ
無詮

心千シテルトアリ
一カキヤリスツヘキカイヤリスツハ破於テ後也イ本ニカキヲカツトアリカツク也ヤ

一カキヤリスツヘキ長字ハツヨリハツトハニイトスイ本ニカキヲカツトアリカツク也ヤ
一ヲサクハスコフルト云心也

兼三源氏ニタキ詞也所ニヨリテ心得アルヘシ

一スサマシキ物ニシテ見ル人七十キ伊勢物語

枕草子ニスサマシキ物ノ内ニシハスノ月ヲノセタリ

ト云傳タリ今一兩本ノミルニ無之可考之

アサカホノ巻ニ時クニツケテ人ノ心ヲウツスメル花

モミキノサカリヨリモ冬ノ夜ノスメル月ニ雪ノヒカリ

心千シテルトアリ
ナキトハ
無詮
秋ハ木ノカクハミル物也
ト云傳タリ今一兩本ノミルニ無之可考之

アヒタル空コソアヤシウ色ナキモノ、身ニシニテ此

世ノ外ノコトマテキモヒナカサシキモシロサモアハレサ

モノコラヌキリナシスサマシキタメシニイヒヲキケン人

ノ心ノサ、ヨトテニス一キアケサセタニウ

アケマキニヨノ人ノスサマシキコトニイフナルハスノ月

ヨノクモリナクサシイテタルヲ

河海ニ清少納言枕草子ニスサマシキ物ニハスノ

月夜ツツナキウナノケサウツツナハ嫗老女也

此外宇治ニ數所ニハスノ月ノ事アル也

十列冷物十二月月夜扇等アリ

同記
秋の夜
本の葉
月夜
今月夜
今月夜

香火
燈
白
禮
經

篋カ日記シハスノモ十月ノ比月イトアカキニ物語
シケルヲ人ニテタレソアナスサマシハスノ月夜ニモ
アルカナトイヒシモソアハレナリケル 河海ニ

一御佛名 十二月十九日ヨリ二十一日ニテ三
箇日也或ハ一夜モ例アリ仁壽殿ノ御本尊ヲ
移メ御帳ノ中ニ掛テ南額ノ間ニ又南北ニ机ヲ
立テ佛像塔形ヲ置佛前ニ香花ヲソナフ導師ニ
カツケノ綿ノ事アリ又勸盃ノ事アリ昔ハ終夜ト
ナヘケレハ延喜ノ御代ナトハ夜ノヲトニテ和琴
ヲカキ合玉ヒケルトカヤニ二世ノ諸佛ノ名号ヲ唱

ヘテ六根ノ罪ヲ滅スル也三箇日ノ間諸國殺
生禁斷ノ由格ニアリ此良ノ山ノ靜安承和五
年奏置宮中季冬佛名懺悔 詳ニ公事根源
ニ見タリ寶龜五年十二月ヨリ始也

一荷前ノツカヒタツ

荷前 宗信法眼 五年高野合

ノサ
荷前トス
ムンデヨム

撰吉日先十三日兼テ定ラル使ハ公卿ノモ殿
上人ノモアリ次官ソイタリ十陵八墓ニ終幣
帛ヲ奉ラセ玉也天智天皇ノ山階ノ之サ、キ拒
武天皇ノ栢原ノ御陵崇道天皇ノ八嶋ノ之サ
、キ仁明天皇ノ深草ノ之サ、キナト等也 公墓

根源二見

一 春ノ御イソキ 正月ノ御用意ニ下リカサ子テノ心也

一 追儼 十二月三十日ケフハナヤラフ夜ナレハ木

舎人寮鬼ヲツトメ陰陽寮サイモンヲモテ南殿ノ

邊ニツキテ上卿以下是ヲキフ殿上人トモ御屋

ノ方ニ立テ桃ノ弓葦ノ矢ニテイル仙門ヨリ入テ

東庭ヲヘテ隴口ノ戸ニイツコヨヒ御前ニ燈ヲキホ

クトモス東庭朝餉マイハン所ノヘノミキリニ燈臺

ヲ隙ナク立テトモスナリキニト云ハ方相氏ノ事也

四日ノリテギソロシケナル面ヲキテ手ニタテホコジセ

○原氏ニ云
河海追儼
鬼ヲラセノ
一

此儀ニ此儀ノ心ハ最勝禱ノ奉行スルニヨリ威儀ヲツケテトニテノ物クヒキ平シテ
ラシクハツイアサキヲ共ニサシラリノ古ヌイソカハシキ契ノカノ有(一)器物ヲ
フトコロニメ出(キ)モアラスホラツ(入)ニ女座ニサツ(キ)所ニモアラズ其ハ
日ハ誦日ナシ奉行ノツトメラキズルユ(ナ)リソレヲ有識ノ人ニモセトシテ
ケル事ナシト思ヒ付ハタトハ居ノ前ニテモ甲冑ノ士ハ其下拜セカガ
侍シ

如シ
コツクニノ向ハ宇多抄ニツカニハタトハハ草カリテツカヌルホトトムヘ
ノ向ノ東ノ方ハ床ノ新ノ角ヲ生スル時一東ガリニ短クニ夏月ノ角ヲ
生ニハ故ニ夏整行トヨメリ

元日 天子東庭ノ御ツテ天地山

陵ヲ拜シ玉テ年災ヲハラヒ寶祚ヲ祈リ玉フ也

其内トリウケ御屬星ヲ拜メ災難ヲノソカル天地

四方ヲ拜セラルニ依四方拜ト云也ナヲ詳ナル

事ハ公事根源ニアリ

根源二見

一 春ノ御イソキ 正月ノ御用意ニトリカサ子テノ心也 年考イソキの御用意ハ心ヲ成ルニ御意ニ西行

一 追儻 十二月三十日ケフハナヤラス夜ナレハ木 追儻

舍人察鬼ヲツトメ陰陽寮サイモンヲモテ南殿ノ 察鬼

邊ニツキテ上卿以下是ヲキフ殿上人トモ御屋 御屋

ノ方ニ立テ桃ノ弓葦ノ矢ニテイル仙門ヨリ入テ

東庭ヲヘテ隴口ノ戸ニイツコヨヒ御前ニ燈ヲヤホ

クトモス東庭朝餉タイハン所ノヘノミキリニ燈臺

ヲ隙ナク立テトモスナリキニト云ハ方相氏ノ事也

四日ノリテギソロシケナル面ヲキテ手ニタテホコソセ

ツ又倂子トテ二十人緋ノ布ネキタル物ヲ卒シテ

内裏ノ四門ヲハル慶雲二年十二月ニハシテ

ル此年天下ニ百姓キホク疫癘ニナヤマサ侍シ

故也 公事根源ニ 純句ニ金吾除夜進儻名畫務末夜四隊行院々焼燈白日向香火底坐吹笙

一 四方拜ニ 丁々々の字付しるしつ雲の上り炎の付物子末町の

元日寅ノ時ニ天子東庭へ出御アツテ天地山

陵ヲ拜シ玉テ年災ヲハラヒ寶祚ヲ祈リ玉フ也

其内トリウケ御屬星ヲ拜メ災難ヲノソカル天地

四方ヲ拜セラルニ依四方拜ト云也ナヲ詳ナル

事ハ公事根源ニアリ

○原氏ニ名
うらとく
河海追儻
鬼ヲラセノ

一足ヲソラニマロフトフトイソカハシクフタヌク心也

オアフヒノ巻ニラシヨ空ニテタレモカテ給又

一ナキ人ノクル夜トテ玉ニツルワサ玉ハ魂ノ心也

引祠元曾祿也五ニツル年ノ終ニ成ニケリ今日ニヤ又モハントス

ラシ大晦日ニタニツル事兼好カ時代ニサヘ

都ニナシト書タリ今ハナヲサタモナシ東國ニモ会ハ

此サタナキトソ

一カクテ明行空ノケシキ春ハ秋ヨリ面白ト春出ニテ亦春ニカキカハス

此結句折節ノウツリカハリ又春ニ立カヘルタルト

書タル景氣尤可甘心ノミ

一おのりのさぬ 在源氏 大路 万葉

万葉ニ春ノ目ニハル柳ヲ取モケテニハ都ノヲホケラモホユ

サナニカシトカヤイヒシ不書名有物語ノ文法

ナニカシトハナニカシ寺ナト云ニ同シ某字ヲカキ

一此世ノホタシミクニノ駒ノツツク青ツラ思フノ我ハホタシナリケシ

胡世ノウキメエヘ又山路ヘイランニハ思フ人コソホタシ

成ケシ哀テフヌコソウケテ世中ヲ思ヒスニナルホタシ

一モタヲ又身ニ不持モタ又身ニ也

定家哥云又人ノトウ又モウレシ草木又ニナレテハカチノ別ニ

一ソラノ名残 毎月ノ移リ行空ヲホケラニク思フ

セヨロツノ事八月之ル

此段ハ前十九ノ段ニキリフシノウツリカハルヲ書
名ニ秋ヨソ面白ケシ春ヨソ面白ケレト書出タリ
ソノ筆法ニ同シ月ヲ面白ト云出メ露風水ナト
萬物一氣ヲ轉メ其感ヲ書事尤可甘心者也
一キリニフレハ何カハ哀ナラサラン

月下露トノ哀ヲアラソヒト批判シタル詞也

一沅湘日夜ト 沅湘ハ水ノ名也沅水湘水也

湘南即事

載叔倫 載

廬橘花開楓葉衰

出門何處望京師

一風乃丹之... 物凡... 夜東流... 去... 物ヲモテ又... 入... 往... 時

一嵇康モ山澤ニ

嵇康ハ晋ノ七賢ノ其一人也西晋列傳十九

ニアリ文選ニ 愁叔夜與山巨源絶交書曰游

山澤觀魚鳥心甚樂之一行作吏此事便廢

安能舍其所樂而從其所懼哉

一人トヲク水草キヨシ

人逸キ而ナラハ清涼ナラズ

引トツ國ハ水草キヨミコトシケキ都ノ内ハスマ又マサレ

リ 玄賓僧都ノ歌也

已上三段

天地ノ風景ヲ述タリエンニヤサシキ類也

世ヨロツノ事八月之ル

此段ハ前十九ノ段ニキリフシノウツリカハルヲ書
タルニ秋コソ面白クシ春ヲ面白ケレト書出タリ
ソノ筆法ニ同シ月ヲ面白ト云出メ露風水ナト
萬物一氣ヲ轉メ其感ヲ書事尤可甘心者也
一キリニフレハ何カハ哀ナラサラン

月下露トノ哀ヲアラソヒト批判レタル詞也

一沅湘日夜一 沅湘ハ水ノ名也沅水湘水也

湘南即事

廬橘花開楓葉衰

出門何處望京師

載叔倫載

沅湘日夜東流去 不為愁人住少時

一愁康モ山澤ニ

愁康ハ晋ノ七賢ノ其一人也西晋列傳十九
ニアリ文選ニ 愁叔夜與山巨源絕交書曰游
山澤觀魚鳥心甚樂之一行作吏此事便廢
安能舍其所樂而從其所懼哉

一人トヲク水草キヨシ

人逸キテアラテハ清涼ナク又ハ

引トツ國ハ水草キヨミコトシケキ都ノ内ハスマ又マサレ

リ 玄賓僧都ノ歌也

已上三段

天地ノ風景ヲ述タリエンニヤサシキ類也

ニナニ事モフルキ世ノミソの事

一木ノ道ノタタニ 大工番匠ノ外木ノ道ト云者

上古ニ有ルト也

一コタイノスカタ 古代ノスカタ也

一フミノコトハ 消息ノ文章也

一主殿寮ノ人数ヲテ

主殿ツカサ夜ノ行幸ノ時火ヲ持役也

當時タチアカシシロクナト云今ヤウアシキト也

〇何事も... 此段ハ... 御講ノ... 撰吉日ヲ定日ヲナ

一五箇日有之一条院長保四年五月七日

ニ始テ行之ナヲ公事根源ニ詳也東大寺延曆

寺興福園城四箇大寺ノ僧ヲ撰テ證義講師

聽衆ナトアリ寂勝王經ヲ清涼殿ニテ講セラル

也

一御カウノ口ハ 御講ノ廬ニテアルヘシ最勝王經ノ

論義ヲ聞シ召所ヲ云也廬ハイヲリトヨム關白十

トノ内裏ニテクツロキ所ヲカヘラル、ヲ直廬ト云

天竺ノ風俗也
日土三

ニナニ事モフルキ世ノミソの事

一木ノ道ノタタニ 大工番匠ノ外木ノ道ト云者

上古ニ有ルト也

一コタイノスカタ 古代ノスカタ也論云云

一フミノコトハ 消息ノ文章也口及古

一主殿秋白ノホゴトモ索ノ人数マニルカチシ大空ニテカキチラスラ

主殿ツカサ夜ノ行幸ノ時火ヲ持役也

當時タチアカシシロクナト云今ヤウアシキト也

一最勝講ノ御聽聞所ナルヲハ塙

塙囊抄曰最勝講五月也撰吉日ヲ定日ヲナ

シ五箇日有之一条院長保四年五月七日

ニ始テ行之ナヲ公事根源ニ詳也東大寺延曆

寺興福園城四箇大寺ノ僧ヲ撰テ證義講師

聽衆ナトアリ寂勝王經ヲ清涼殿ニテ講セラル

也云

一御カウノ口ハ 御講ノ廬ニテアルヘシ最勝王經ノ

論義ヲ聞シ召所ヲ云也廬ハイヲリトヨム關白十

トノ内裏ニテクツロキ所ヲカヘラル、ヲ直廬ト云

直八宿直ナト人心ナルハシ

詰奏ノ間ノ各宿ノ中ニ直八宿ノ名アリ

前ノ段ニ古昔ノミラシクハキト有シ美事ニ衰先末立ト云下九重ノ久キハ直八宿ノ
ハナレテ有白ノ末ノ世ナレ内直八宿代ノ風ヲ抄テ有白ノ末ノ世ナレ
直八宿ノ末ノ世トハ

此段ハ前段ニハ上代ヲシタヒタル事ヲ述タリ爰
ニテ又末ノ世トハイハトモト禁中ノ義ヲホメテ書

タリハノ義 神宮トカケリ内林ト知抄ニス

九重 都ノ事也 一條ヨリ九條ニテノ事也

ヨツカフ セツ不絶セ上ヒキヤケルハ上ノ器ニククニシテ神事ノ中ノハ世上ヒキヤケルハ世
ウキ世ヲハナシテノ心也

露臺 禁中御殿ノ内ノ間ノ名也

アサカレイ 清涼殿ノ内ノ南ニアル也

朝餉間 二間也 於此所朝夕供之南ニ平敷

二枚東北ニ立縮ノ屏風夜御殿方ニ副障子

アリ御屏風ノ内外ニ安御調度 河海 ナシ

詳ニ見禁秘抄

ナニ殿ナニ門 殿ノ名門ノ名一ニアラハサ又也

詳事ハ拾芥抄ニ見タリ又禁秘御抄ニモ詳也

ナニ殿ヲ イ本ニ南殿トアリワルシ

小板敷 名目抄云曰神仙門ノ中ヲ今ハ殿上

ニアリ

一高遣^{板敷ノ間}古ノ今ハ清涼殿ノヒツシサルノ廊下ノ間ニアリ
陣^{燈ノ用}ニ夜ノ^{ウケセヨ}ウケセヨ^設 寄夜^{御夜ノ意}御夜ノ意 前大納言

一ウケトハ用意也燈^{カキメテヨトス}ボノ事也

一ヨルノ^{カキメテヨトス}ボハカイトモシトウヨナトイフ

火ヲハヤクトモセヨト云事也

陣ニテハ夜ノウケト云夜御殿ニテハカイトモシト云

ヤリニ書リケタリ燈ヲ所ニヨリテユイヤウカハルトニ

ヘタリ又ウケト云ハ必燈ニカキルヘカラス

夜御殿清涼殿ニアリ四方ニ妻戸アリ南ハ大妻

戸ノ間也御帳同清涼殿東枕禮記曰寢時

東首疊御座敷也御枕ニ二階アリ神璽寶劔

シ女セラル有覆蘇芳也御帳ノ四角ニ燈樓アリ

搔燈トテ夜ル火ヲケタズ是ハ寶劔神璽ノ御タメ

也御帳ノ南西北ニ疊ヲ敷テ女房ノ座トス建曆

ノ御記ニ見タリ 巳上河海

一上^{三位以上ノ者}知^{公卿}ノ陣ニテ 上^{三位以上ノ者}知^{公卿}トハ大臣大中納言等ノ公

卿ノ陣ニテ摠奉行^{紫宸殿ノウキニ板ノ向アリシラ陣ニ生ト云}シ玉ヲ役者ヲ云也節會ノ

時ハ内^{内重ノ度}辨^{ウキニ}ト云也

一諸司ノシモ人トモノ 節會ニテハ 駟^{カキ}カカシ

諸司トハ百官ニ職寮司具外サニク差別アレト

モ惣メテ諸司ト云也詳職原抄ニアル
シモ人トハ諸司ノ下ノシタクニテ云ノヘタリ

一德大寺ノオホキキト、
實基公也

春官
大夫
兼政官

實行
三條流号轉法輪

關院流
權翁言
公實
大納言

通季
西園寺流

堀川院
初度百
自此卿
勸進也

實能
公能
實定
公繼
實基
公孝

德寺流

苗齋宮ノ野宮ニキハシニスアリ様

垂仁天皇二十五年丙辰三月依神宮御詫宣

奉祝伊勢國五十鈴川上以第二皇子倭姫

命令着御祭給是齋宮ノ始也又景行天皇

二十年第二皇女奉仕天照太神 齋宮ハ

代クニカトノ御ムスメヲタテツラル、事也御ム

スメナキ時ハ親王ノ女ナトノ井玉ヲ事モ例アリ

天照太神へ宮ツカヘナトノ體也
イ本ニ齋

宮ヲ齋王トアリ齋宮ノ事也齋内親王也

一野ノ宮ノ事

齋宮ニ備リ玉フ事以上三年ノ御神事也其
中三度ノ御禊アリ先ツ齋宮ニ定リ玉フ事卜定
トテ御卜占アリ定玉テ初齋院へ入五ントテ御ハラ
ヘアリアクル年野宮へ入五ントテアリ又アクル年
伊勢へ下リ五ントテ御ハラへアル也野宮ニシハシ
二事ハ二年メノ八月ヨリ翌年八月マテ也延喜
式ニ具載之花鳥一葉抄曰伊勢齋宮ノ野宮
ハ嵯峨ノアリス川ニアリ賀茂ノ齋院ノ野宮ハ紫
野ニアリ

私曰野宮ヲ賀茂ニテハ齋院ト号也嵯峨ト伊

勢ニテハ齋宮ト号也但イツレシモイツキノ宮ト申
也

一ヤサシクモシロキ事ノカキリトハキホエシカ
賢木ニ 秋ノ花ニナシト口ヘツ、アサキカ原モカレ
クナルムシノ子ニ松風スコクフキアハセテソノ事トモ
キ、ワカレヌホトニモノ、子トモタエク聞ヘタルイトエ
ン也物ハカナテナル小柴カキヲホカキニテイタヤ
トモアタリクイトカリソメナリク口木ノ鳥井トモハサ
スカニカウクモウミワタサシテワツラハシキケシキナルニ
カンツカサノモノトモコ、カシコニウキシハフキテヲノカ

トナモノイヒタルケワヒナトモホカニハサマカハリテミユ
ヒタキヤカスカニ光テ人ケスタナクシメクトシテユ、
ニモノオモハシキ人ノ月日ヲへ給ツランホトヨキホシ
ヤルニイトイミシウアハレニ心クルシ

一經佛ナトイミテナカコソメカ青巻九ノ故ニ

延喜式曰忌詞内七言佛稱中子經稱染紙

塔稱阿良之伎寺稱瓦膏僧稱髮長尼稱女髮

長齋稱片膳外七言死稱直病稱息哭稱鹽

垂血稱汗打稱撫完稱菌ツクシ臭稱壤ツクシ

是神宮式也賀茂同之河海又塩囊抄云延

喜式曰佛稱保祢祿ハ同之

詞花雜部ニ賀茂ノイツキト聞ヘケルトキ西ニムカ

ヒテヨメル 選子内親王 聖帝ノ自王女

思ヘトモイムトテイハ又專テレハソナタニムキテ子ヲノミ

ソナタ

一榊ニヲカケタルナト シラユフ也 シテノ事也

木綿 八雲ニ榊カエタニシクカ付ナトイヘルモユ

フ也 神道ニハ ヌフ四手 麻 幣ホ差別アリ

一コトニキカシキハ

枕草子ニ神ニ松瓦ヤハタ大原野春日イトムテタ

平野ハイタツラヤノマリシヲ何スル所ソト、ヒシニ
御コシヤトリトイヒシモイトメテタシニコモルノ神又キ
カシ賀茂更ナリイナリ。
大此枕草子ノ筆ハウニテ書タルヤウ也。

^{萬葉山經}アスカ川フチセ常ナラヌ世ニシアレハ時^{四季物更}ウツリ事サリタ
ノシニカナレニ行カヒテ。

此段イニシヘヲ考テ今ツツシルナルヘシタトハ東
國執推天下ヲ掌ニニキリ鎌倉ニ五山ヲ建テ千カ

キ我カ子孫ノミ天下ノカタメト思ヒタルヲ云ナル
ヘシ。

アスカ川淵ニモアラヌ我ヤトモセニ替行物ニソ有ケル
時ウツリト。古今序ニタトヒ時ウツリ事サリタ
ノシニカナレニ行カフトモコノ歌ノモシアルヲヤ

飛鳥川ト書出タルヨリ古今ノ序ノ心也。
時移事去樂盡悲來。長恨歌ノ傳ニ。

一野ヲ。野原也萬葉草ノ字ヲノラトヨメリ又野筆
川里ハ荒テ人ハフリニシメトナレヤ庭モ籬モ秋ノヲナル
一桃李物イハ子ハ。

桃李不言春幾暮煙霞無迹昔誰拙

一京極殿道長公之家

法成寺道長建之ナトニルコソ

京極殿法成寺トモニ御堂關白道長公住五

シ古跡也

君ライハ法成寺ノ柱アラタクテ千代モ又ハ

京極殿ハ土御門ノ南京極ノ西南北二丁

其南一丁被入之道長公家或ハ大入道殿ノ

家上東門院是也後一條後朱雀後冷泉二

代於此所御降誕アリ大江連房衡宅朝綱皇

后四人於此所誕生此家紀伊嶋賀茂明神

跡尤モ表モ一スルハ一入哀ナシ

上見于拾芥抄之中

法成寺ハ五條河原也後一條院行幸アリ詳

二榮花物語二見ハタリ

京極殿ニハ宇治ノ關白頼通公ニ住五ノヘキ由

道長公御遺言アリシ也

一志ト、一リ事變、一ノ一 志トハ昔ノ主人ノ後代、

テト思ヒ置ケル志ノ趣ハト、一リ此事ノ様ハ變シ

タルト也

一庄園知行キホクヨセラレ

道長公御病中ニ庄園多ク寄附セラレタル事委

凡雅集
カタクノ
法成寺
系リニ
ヨニキハ
クモリナク
ミカドノ
ハナニハ
モイ
クモリナク
有ナル

ク榮花物語ニアリ

一我カ御ゾウノ之也 我カ御曾孫ノ之也

御門ノ御ウシロミ世ノカタメ 如道長公ヲホシメス故ニ遠仙神ノ也

道長公ノ心ニヘタリトソシテ書タリ心ヲ付ヘシ

一金堂 和名集云 佛殿ハ金堂也

一正和ノ比 人王九十四代 花園院ノ年号也

一無量壽院 法成寺ノ内ニ舊跡アリ阿弥陀ヲ安

置セラレタル故ニ無量壽院ト号スルト覺侍リ九

體安置アル事ハ九品ノ淨土ニカタトル印相ナト

上品中品下品ニカハリ目アル由聞及侍リ此院

伊射不定也
然七人一倍ノ
一丈六尺ト云
言干物ハ言
敬シ仰

一行成大納言 能書ノ家也

系攝政政盛
哥人右少將
号後少將
推大納言正

伊尹 義孝 行成 三跡ノ内ノ摧跡

謙徳公

ナソ下卷百条ノ下ニ注之

一カ子ユキカケル扉 兼行畫師也 能書也

或抄云法成寺額大納言殿行成卿扉ハ兼

行阿弥陀堂内 兼行太和守延久四年

ク榮花物語ニアリ

一我カ御ゾウノ之也 我カ御曾孫ノ之也

御門ノ御ウシロミ世ノカタメ

如此道長公ヲホシメス故ニ遠祖ノ神ノ心也

道長公ノ心ニヘタリトソシリテ書タリ心ヲ付ヘシ

一金堂 和名集云 佛殿ハ金堂也

一正和ノ比 人王九十四代 花園院ノ年号也

一無量壽院 法成寺ノ内ニ舊跡アリ阿弥陀ヲ安

置セラレタル故ニ無量壽院ト号スルト覺侍リ九

體安置スル事、九品ノ角上ニカス、此ノ御門

Handwritten notes in cursive script, likely a commentary or transcription of the main text.

伊勢不定也 然七人一倍ノ

人結搆ナル事世繼ニ見タリ丈六ノ佛 釋尊ノ

一丈六尺ト云 言干物ノ言 敬し仰

御タケモ一丈六尺アリタルト也

一行成大納言 能書ノ家也

系攝政政盛香

哥人右少將 号後少將

権大納言正三

伊尹

義孝

行成 三跡ノ内ノ権跡

謙徳公

ナソ下卷百条ノ下ニ注之

一カ子ユキカケル扉

兼行畫師也 能書也

或抄云法成寺額大納言殿行成卿扉ハ兼

行阿弥陀堂内 兼行太和守延久四年

七月日任之内

或抄云延久三年三月十八日大極殿額可

使誰人書乎斗公卿會議之時兼行朝臣應

撰已書大内殿舍額今度尤可書之由右大

臣師房公被計由之系圖追可勘加也

一カガリノ名残 是トナリサナキハ後ノ説ト知人モナシト世間ノニルノ
野槌云は成子ナトカク各尺所サハ此況其外之田沐哉流人ナキ

恋風モ吹アヘスウツロフ人ノ心ノ花ニ

此段世ノウツリカハリ心ノ外ニナリ行事ノアハレ

此段の世此人ノ心ノ外ニナリ行事ノアハレ
心ノ外ニナリ行事ノアハレ

引櫻ハナ花トクチリヌトモキモホエス人ノ心ソ風モ吹アヘ又

引色ハナニエテウツロフ物ハ世中ノ人ノ心ノ花ニツアリケル

一ワカ世ノホカニナリ行 世上ノ心ノ外ニウツリカハリ

成行事ハナキ人ノ別ヨリモカナシク覺ル也

一サレハ白キ系ノソニ事ヲ一ノ道ノ千一タニ一准

南子曰揚子見達路而哭之為其可以南可

以北墨子見練糸而仿之為其可以黃可以

黑高秀曰憫其本同而未異

堀河院百首 兩度ノ百首アリ初度ノ百首ハ

權大納言兼春宮大夫藤原公實卿 勘進

凡能 集 高 上 昔 人 自 心 口 十 十

七月自任之内

或抄云延久三年三月十八日大極殿額可
使誰人書乎斗公卿命議之時兼行朝臣應
撰已書大内殿舍額今度尤可書之由右大
臣師房公被計由之系圖追可勘加也

一カバカリノ名残 是トノナリサナキトハ後ノ説ノ知人モナシト世間ノ事ニ
野槌云は成子ナトルノ名尺所サハ此況其外之田津哉流人ナキ

風モ吹アヘスウツロフ人ノ心ノ花ニ

此段世ノウツリカハリ心ノ外ニナリ行事ノアハレ
シノフル也前段ニ類スル也

風モ吹アヘスウツロフ人ノ心ノ花ニ

古カ色カニエテウツロフ物ハ世中ノ人ノ心ノ花ニツアリケル

一ワカ世ノホカニナリ行 世ノ上ノ心ノ外ニウツリカハリ

成行事ハナキ人ノ別ヨリモカナシク覺ル也

一サレハ白キ系ノソニシ事ゾ一ノ道ノ千一タニ一准

南子曰揚子見達路而哭之為其可以南可

以北墨子見練糸而紡之為其可以黃可以

黑高秀曰憫其本同而末異

堀河院百首 兩度ノ百首アリ初度ノ百首ハ

權大納言兼春宮大夫藤原公實卿 勘進

凡維 集ニ 高辨 上人 昔之 八心 白糸 八心 〇ハイ 〇ナシ

之六見明題抄

一ムカシニシイモカ垣子ハアレニケリ
此歌即公實卿ノ歌也董菜題也

或本ニ後ノ百首永父四年十月廿日トアリ
案ニ永父ハ鳥羽院ノ年号也撰者未考也

御國エツリノ節會

天子ノ東宮へ御位ヲユツリ玉フ時ノ節會也

内侍所ノ鏡也此鏡天正レヲ宮女御ヲ蓋テ為メ在故ニ内侍所ト云其手リ宮女此番ヲツトルし鏡ハ守鏡也

一 劔璽内侍所

カヤウニハ書又レトモ第一内侍所

次劔次璽也 是ヲ三種ノ神器ト云也

一新院 花園院

相當スヘキ歟當代ト書タルハ

後醍醐ノ様ニ見エ侍リ

一 オリ井サセ給ヒ

御位ヲ、リ居玉フ也

一 トノモリノトモノニヤツコヨソ

トモリノ伴ノニヤツコヨソハ此トモリ朝キヨメスナ

主殿寮ノ下司トモ禁中ノ拵掃ノ役人也

引トノモリノトモノニヤツコヨソニシテハラハ又庭ニ花ソ

千リシク

伴氏 御一奴

主殿寮ノ官人主殿寮ノ下アハ伴氏者也

之。見明題抄。

一ムカシニシイモカ垣子ハアレニケリ。此歌即公實卿ノ歌也。堇菜題也。

或本ニ後ノ百首永久四年十月廿日トアリ。愚案ニ永久ハ鳥羽院ノ年号也。撰者未考也。

御國エツリノ節會

天子ノ東宮へ御位ヲユツリ玉フ時ノ節會也。御讓位トモ讓國トモ云也。

一 劍神玉内侍所

次劍次璽也。是ヲ三種ノ神器ト云也。

一新院 花園院 相當スヘキ歟。當代ト書タルハ

後醍醐ノ様ニ見エ侍リ

一キリ井サセ給ヒ 御位ヲ、リ居玉フ也。

一トノモリノトモノニヤツコヨソ

主殿寮ノ下司トモ禁中ノ掃除ノ役人也。

引トノモリノトモノニヤツコヨソニシテハラハ又庭ニ花ソ

キリシク 伴氏 御一奴

主殿寮ノ官人主殿寮ノ下アハ伴氏者也。

一カ、ル折ニソ人ノ心モ
主君親昵朋友等ニ忠節義理ヲス、ムル詞也

諒闇ノトシハカリ 天子崩御ノ事ヲ云也

鹽囊抄曰國主ノ崩ヲ諒闇トモ諒陰トモ云也

又大子ノ御忌ヲ諒闇トモ云ソ諒陰ヲマコトニモ

タスト讀也諒陰トハ天子ハ日々萬民ノ訴ヲ斷

玉フヘキヲ一向ニ默メ不聞召故也サレハ尚書

曰殷高宗ハ諒陰三年不言ト云安國注云諒

ハ信ナリ陰猶默ト也

○布此よりかゝりモカウ紋付ハミスノリウ布ニスハ木
ノ紋付林代御所ノ御イマカリヤ也以日易月トテ十

二日ノ御忌アル也居倚廬寢苦枕塊不脫經

帶 孟康注倚廬ハ倚牆至地而為之無楣柱

鹽囊抄曰倚廬ノ御所トハ諒闇ノ時ノ天子ノ

皇居也内裏ニ板敷ヲ下葦ノ御簾布木瓜太

刀平緒其外裝束等皆非常也

一太刀 黒作リ銀カナ物也

一ヒラヲ 平緒モ墨染也

一ユ、シキ コ、ニテハイマクシキ也

モツカウトモカ
冒額トカシ也

平緒モヒライ緒也

一カ、ル折ニソ人ノ心モ 此結句篇安也 主君親昵朋友等ニ忠節義理ヲス、ムル詞也 簡要ノ字

艾諒闇ノトシハカリ 天子崩御ノ事ヲ云也

鹽囊抄曰國主ノ崩ヲ諒闇トモ諒陰トモ云也

又大子ノ御忌ヲ諒闇トモ云ソ諒陰ヲマコトニモ

久スト讀也諒陰トハ天子ハ日々萬民ノ訴ヲ斷

玉フヘキヲ一向ニ默メ不聞召故也サレハ尚書

曰殷高宗ハ諒陰ニ三年不言ト云安國注云諒

陰ニ三年不言猶默ト也

一倚廬ノ御所 御イマカリヤ也以日易月トテ十

二日ノ御忌アル也居倚廬寢苦枕塊不脫經

帶 孟康注倚廬ハ倚牆至地而為之無楣柱

鹽囊抄曰倚廬ノ御所ハ諒闇ノ時ノ天子ノ

皇居也内裏ニ板敷ヲ下葦ノ御簾布木瓜太

刀平緒其外裝束等皆非常也

一太刀 黒作リ銀カナ物也 イツレモ道具トモ大ナクソロソリ

一ヒラヲ 平緒七墨染也 平ニツクヒライ緒也

一ユ、シキ コ、ニテハイニクシキ也

塩

三ツウカキシタノ本字ハ
冒額
モツカウトモカム
トカシ也

五シツカニオモヘハ過ニシカタノ戀シサノミ

枕草子ニ過ニシカタ戀シキ物カレタルアウヒ、イナ
アツヒノテウト又キリカラ哀ナリシ人ノフミツレクナ
ル日サカシ出タル

源氏幻ノ卷ニキキトマリテカタハナルヘキ人ノフミト
モ物ノツ井テニ御ラニシツケテヤラセ給ナントスルニカ
ノス一ノ比トコロノヨリ奉ラセ給ケルモアル中ニ彼御
手ナルハコトニユヒ合セテソアリケルニツカラシヨカキ給
ヘル事ナレト又シウ成ニケルコト、ギホスニタ、今ノヤ
ウナルスミツキテニキトセノカタニニシツヘカリケルヲミ

ス成又ヘキヨトキホセハカヒナクテウトカラ又人ノ
二三ノ人斗キマヘニテヤラセ給イトカ、ラヌホトノ事
ニテタニ過ニシ人ノアトミルハ哀ナルヲマシテ
一スサヒタル 爰ニテハナクサム心也テスサヒノ心也
一タソク 諸道具也

大木秋部三

雁 後頼朝

秋の田のわづらひのこゝろにさかすまのけしきをみれば
あはれなるをばいふもなほいふもなほいふもなほいふも

世人ノナキ跡ハカリカナシキハナシ

此段文選古詩ヲ以テ書タリ

一 中陰 人死メ未來生中間ニ五陰ノ形ヲ先得

早九日 向中有五陰ヲ受メ

ヲイフ

ツシ

ニツ

故二中陰ト云也五陰トハ色受想行識ト云是也或一七日乃至七々日ノ間佛事善根ヲ修スル也詳ニ隨願淨土經并無常經等ニ見タリ

一心アハタ、シ 心イソカハシキ也周章 燮 河海

源氏ニ君ハ御念誦シ給テギホシメクラスニイト

心アハタ、シ

一物ニモニ又萬事又ニスクレテ非キリ物ニタトヘンカヤナキト云心也

一ハテノ日ハ四十九日過キテアラ四十九日也

一行アカレヌ別クニナリテ退散ノ義也別ニ成タル也

一シカクノ事ハ口語ニシカクナシトアリ人ノ詞ニツイテ其ヤウナル事ハト云也

又云云日本記 河海ニ色ノユイ事ト云心也

一マナカシコアラカニヘテアニリナケクナレム下學集曰穴賢上古時倭漢兩國

未知家人居士窠恙虫螫人故本朝書札ノ

末ニ相勸テ云穴賢言土窠之穴賢閉塞テ可

防恙虫ヲ 私曰右本說未詳今考於輟

耕録第四略曰風俗通曰上古之時草居露

宿恙噬人蟲也善食人心大患苦之凡相問

曰無恙、或以爲獸或以爲蟲或謂無憂兼

取憂及蟲廣韻曰恙字下注曰憂也病也噬

蟲善食人心此ノ書ノ心ヲ取テ書タル歟穴賢

ノ義不審也俗書ノ末ニアナカシコト書事ハ愚
案ルニアナカタシケナヤト云義ナルヘシ誠惶誠恐
ナト書類ナリ今此ツレク草ノアナカシコハアナカマ
エテト云心也

一カバカリノ中ニ何カハカクハカリノ中ニト云此上ニテハ何ノ
イニクシキ事カアラント云心也

一年月ヘテモ露ワスル、ニハアラ子ト

玉カラツ二年月ヘタ、リ又レトアカサリシタカホノ露

ワスレ給ハス

一サル物ハ日ニワトシ 已上文選ノ詩ノ心也

文選 古詩十九二曰去者日以疎來者日以
親出郭門直視但見丘與墳古墳犁為田松
摧為薪白揚フホシ及悲風蕭々愁殺人思還古里
閭欲歸道無因

一サハイヘト 上ノ年月ヘテモ露ワスル、ニハアラ子ト

ト云ニアタリテノ詞也ワスレ又ト云ソノキハ、カリ
ハギホエ又ニヤムサトシタルヨシナシ事云テ笑事モア

ルソト也 キハ、カリトハギハホトニト云心也

一カラハ係氏精於未死骸也 桐壺ニムナシキ御カラヲトアリ

一ケウトキ ヨソロシキ心也 河海ニ氣疎ケウトキ

一ヨスカ、夕ヨリ也。

一ツモ又ホトナクウセテトハツレモ又也其ノシノク人モ
ホトナクウセテ後ハ聞傳ル斗也。

一イツレノ人ト名ヲタニシラス年々人春人草人ニ
古墓何代人不知姓與名化為路傍土年々

一其カタ、二十ク、
其カタ千タニ無クナリ又ル事ノカナシキ也。

其カタ千タニ無クナリ又ル事ノカナシキ也。

世ノキモシロクフリート

此段カクレナシカリソメノ一言モ尤可翫味也。

一人ノカリ、人ノモトへ也。

リキモヒカ子イモカリ行ハ

此段ハ...

九月廿日ヨロ

此段ヤサシキ風情前段ニ同シ枕草子ヲ以テ

書タリソノ比イタクスイタルモノニイハレ心ハセアル

人ノ九月ハカリニイキテ有明ノイニシウキリニキテ

キモシトキニ名残オモヒ出ラレントコトハツクシテイ
 ツルニイマハイヌラント、ヲクミヲクルホトエモイハス
 エムナリ出ルカタヲミセテ立カヘリタテシトミノ間ニ
 カケニツイテ猶イキヤラヌ様ニイマ一タヒイヒシラセン
 トキモフニ有明ノ月ノアリツ、モト忍ヒヤカニウチ
 イヒテサシノソキタルカニノカシラニモヨリコス五寸
 ハカリサカリテ火ヲサシトモシタルヤウナリケルニ月
 ノ光モヨホサレテオトロカル、心チシケレハヤシラ出
 ニケリトカタリシカ

一マナイセサセテ、案内セサスル也。

一ナトナラヌニホヒ、トリツクロハ又心也。ニワカニテラス常ノ

口まのいなるい、世の上ハハカテヒツカニヒテシル気色し
 口よき、能くし、ハハカテヒツカニヒテシル気色し
 出、口まのいなるい、世の上ハハカテヒツカニヒテシル気色し
 口まのいなるい、世の上ハハカテヒツカニヒテシル気色し

其人ウセタリト書テ枕草子ヲアタラシクトリナシテ
 又哀モナシ一入深クキホユル也。

一今ノ内裏ツクリ出ラレテ

- 一センカウノ日 遷幸ハ新殿ヘウツリ玉フ事也
- 一玄輝門院 伏見院ノ母后也洞院山階ノ左

キモシロキニ名残オモヒ出ラレントコトハツクシテイ
ツルニイマハイヌラント、ヲクミヲクルホトエモイハス
エムナリ出ルカタヲミセテ立カヘリタテシトミ人間ニ
カケニツイテ猶イキヤラヌ様ニイマ一タヒイヒシラセン
トキモフニ有明ノ月ノアリツ、モト忍ヒヤカニウチ
イヒテサシノソキタルカニノカシラニモヨリコス五寸
ハカリサカリテ火ヲサシトモシタルヤウナリケルニ月
ノ光モヨホサレテオトロカル、心チシケレハヤシラ出
ニケリトカタリシカ

一アナイセサセテ、案内セサスル也。

一ワサトナラヌニホヒ、トリツクロハヌ心也。レメヤカトハ

一猶モトサマノユウニ、猶事様ノ優ニ也。

ソノ人ホトナクウセニケリ、

其人ウセタリト書テ枕草子ヲアタラシクトリナシテ
又哀モナシ一入深クキホユル也。

今ノ内裏ツクリ出ラレテ

一センカウノ日、遷幸ハ新殿ヘウツリ玉フ事也。

一玄輝門院、伏見院ノ母后也。洞院山階ノ左

大臣實雄公ノ女也

一閑院殿 冬嗣大臣ノ家也二条ノ南西洞院ノ

西一丁ニテリ見于拾芥抄

一エウノ入テ 葉ノ字乎

蓋^{カウ}甲香ハホラカイノヤウナル

本草圖經曰甲香今醫家稀用但合香家所
須又有大小用小者佳也可聚香使不散也
和名集曰異物志曰甲香俗云音合螺屬也可合

衆香燒之皆使益芳獨燒則臭

私曰甲香カウカウヲ今俗タイカウト云アヤリ
ナルヘシ貝ノ字ナラハカイカウトモヨムヘキ歟ソレナ
ラハ貝香トエウヘキニカイカウ不審也和名集ニ

和訓ナシ

一所ノモノハヘナタリト申侍シトソ

或人云ヘナタリハ誤也所ノモノハヘナリト申侍
シメノ字衍文ナレヘシ金澤ノモノニタツ子シニヘナ
タリシラスト云依之ハヘト云義佳也ト

重テ考之ヘナタリト云尤佳也國主ヨリ武州ノ

金澤へ詳ニ尋ラレケルニハハニ似テ少し大ニメロノ
 ホトホソナカキ貝ノカフト又ハイノカフト貳ツ到來
 スハイヲハ金澤ニテハツラトモ云ハイトモ云也ト所
 詮ハイノフタヲ用ル事アヤマルト云事ヲ知ラシメシ
 トテ兼好此段ヲ書タルナルヘシツレク草ノ正文ニ
 貝ノナリ能クアエリヘナタリノ和訓尤佳也又本草
 ノ圖畫ヲ見ルニ日本ノハイニハ不似也金澤ヨリ
 來ルヘナタリニ似タリ今ノ俗ハイノフタヲ用事ハ本
 草海藥曰又有小甲香若螺子トアリ是カハイナ
 ルヘシ此義ニヨリテハイノ掩ヲ用ヒキタルカ本草圖
 經ノ下ニ用小者佳也トアリ

葦手

此段朋友ノ向テキノ愚キレシ人ニカクセテ又ナリクテハ
 其交リモウシノ其人ノ手ヲミテクニツカシクハ
 此段カクシナシ今ノ世ニ多ク誰モク可有受用
 事也

葉父

シクヲトツレ又ユロイカ斗
 時カヨフ女ノモトハサハル事ナトアリテ父シクヲト

ツレヌ比也

一ワカヲコタリ ワカケヨリフクタル 此方ヨリ懈怠シタル也

一仕丁ヤアルヒトリナト 仕丁ハ下部ノ事也

下人ヒトリヤトヒタキナト云フコセタル也何事ニテ

モアレ用事ヲ云フコセタルハウレシカルヘキ也

鹽囊抄云仕丁ハツカハル、ヨホ口トヨム

一井ル心サマシタル人 此間人ヲモタマハラヌホトニ此

方カラモ無音申ヘシト云ハワルカタキナリ諸知音

ノ心モ千ナルヘシ

~~世~~朝夕隔ナクナレタル人ノ ~~世~~之 ~~世~~之 ~~世~~之 ~~世~~之 ~~世~~之

以上三段男女トモニ心ツカヒアルヘキ事也

ともある時トハナシトツメテスキヲ致ナシゾ故アル時ト不自

~~世~~名利ニツカハレテシツカナリトナクテ ~~世~~之 ~~世~~之 ~~世~~之 ~~世~~之

此段世間ノ名聞利欲ヲステ、ヒトヘニ眞實ノ

道ヲ修セン事ヲス、ムル也佛法ノ眼目莊老

ノ深奥也多ハ莊子盜跖ノ篇ノ心也

莊子盜跖篇 名利之實不順於理不監於

道吾日與子訟於無約曰小人殉財君子殉

名其所以變其情易其性則異矣乃至於棄其所為而殉其所不為則一也故曰無為小人反殉而天無為君子從天之理若枉若直相而天極面觀四方與時消息若是若非執而圓機獨成而意與道徘徊無轉而行無成而義將失而所為無赴而富無殉而成將棄而天比干剖心子胥擇眼忠之禍也直躬證父尾生溺死信之患也鮑子立乾申子不自理廉之害也孔子不見母匡子不見父義之失也此上世之所傳下世之所語以為士者

正其言必其行故服其殃離其患也

又是ヨリ末ニ富ノ人ニ害ヲル事ヲ論ス略之

一ツカハレテ以心為形役歸去來ノ辞ニ

一害ヲカヒワツフヒシ子クナカタク

文選 不懷寶以買害乎不飭表以招累臣軌

慎密章言易洩者召禍之媒也

一金ヲシテ北斗ヲサフトモ

尉遲敬德唐武德初秦王引為右府參軍屢立大功隱太子嘗以書招之贈金四一車固辭秦王曰公之心如山岳雖積金至斗豈能

移之

排韻二

一金ハ山ニステ五ハ淵ニタクヘシ

若然者蔵金於山蔵珠於淵不利貨財不近

貴富 莊子ノ天地ニ蔵金於山抵壁於谷

文選三

老子經曰不貴難得之貨

注言人君不御

好珍黃金并於山珠玉捐於淵也

一スクレテヲロカナル人ナリ 是マテハ利欲ニ害ノアル

事ヲ論スル也 是ヨリ下ハ名ヲ求ル事ヲツシル也

一賢人聖人貪シクイヤシクテヤニマル又多シ

孔子老子莊子顔回等皆卑賤ニ居メ道ヲ樂也

一ホレシヲ愛スルハ人ノ聞ヲ悦也

莊子ニ雖以天下譽之得其所謂譽然不顧

以天下非之失其所謂儻然不受天下非譽

天損益焉是謂令徳之人

一譽シハ又ソシリノモト也

古文眞寶曰

與其譽於前孰若無毀於其後

與其樂於身孰若無憂於其心

一身ノ後ノ名ノヨリテ更益ナシ

晋張翰傳或曰卿乃可縱適一時獨不爲身後

名耶荅曰使我有身後名不如即時一盃酒

一智慧ヒイテ、ハ偽アリ

大智度論云煩悩者能令心煩作惱故名煩惱一又云偽婬婬屬疑是名煩惱

老子經曰大道廢有仁義智慧出有大偽

一才能 才智 藝能也

一煩惱 大智度論曰 煩惱者能令心煩作惱

故名煩惱又曰屬婬屬疑是名煩惱

不可ハ一條也 莊子齊物篇ノ心也善惡不

二死生一理也

是善惡不可不也此曲正一切事物論

莊子曰方生方死方死方生方可方不可方

不可方可因是因非因非因是以聖人不

由而照之干天亦因是也

一佛家ニ偏知曰權知小智也知中便知是皆非實知也圓

鏡平等觀察不成作是曰實知謂之佛心也其辨

云法界ノ入ノ用即四智也其辨即一心也口不可ハ一條也

賢思得生皆文所ハ是文所物論ノ心ト金剛ノ應無所

徒不生具心トモシ 禪家ニハ此ノ水上胡茄ト云 在楚楚

又古之真人不知說生不知惡死

一ヨヒノ心ヲ以テ名利ノ要ヲ求ル

是ヨリ一段ノ結文也名利ノ要ヲ求ルトハ名利

ヲ要トメ求ル也

野樵云要ノ二字行文也莊子盜跖篇云各就利ト云テ下ノ句ニ非以要各名也ト云リ要ノ字ニ假各付タル合セテ

此段盜石篇ノ心ヲ以テ書タリ

誤リ来ル也

非以要名譽也注云非求以興名譽也

一智慧ヒイテ、ハ偽アリ

大智度論云煩悩者能令心煩作世故各煩悩一又云偽婬及貪瞋及偽是各一也

老子經曰大道廢有仁義智慧出有大偽

一才能 才智 藝能也

一煩惱 大智度論曰 煩惱者能令心煩作惱

故名煩惱又曰屬婬屬瞋是名煩惱

一不可ハ一條也 莊子齊物篇ノ心也善惡不

二死生一里也

是善惡の不可不也曲直非正一切是同一物論

不可ハ一條也 莊子齊物篇ノ心也善惡不可不也死生一里也 是善惡の不可不也曲直非正一切是同一物論

一イカナルシカ善トイフ 是不可ハ一條ノ再釋也

聖人ハ天理ノ一ニ行フ何人善ト云事カ有シ

一トコト人ハ業ハ業即前土車念之宗類

古之真人其寢不夢其覺無憂

又古之真人不知說生不知惡死

一トヨヒノ心ヲ以テ名利ノ要ヲ求ル 同人由事十五

是ヨリ一段ノ結文也名利ノ要ヲ求ルトハ名利

ヲ要トメ求ル也

野樵云要ノ二字衍文也莊子盜跖篇云真者就利ト云テ下ノ句ニ非以要名譽也トアリ要ノ字ニ假名付タル也

此段盜石篇ノ心ヲ以テ書タリ

誤リ求ル也

非以要名譽也注云非求以興名譽也

或人法然上人念佛

此段カクレナシ但文外ニ幽微アルシ可翫味
而已 源空姓漆氏作州イナガハ稍岡人也年十五
功德院皇圓從剃髮受戒 凡大藏經律論
住宗章疏檢閱セスト云事ナシ後信晚見信師信師往生
要集乃乘所業倡淨土專念之宗藤相國延
問淨土之宗事空選擇集ヲ述テ呈ス專修之
徒秘要トス長承二年四月七日生建曆元正

月廿五化年八十傳詳二元章釋書ニアリ

因幡ノ國ニナニカシノ入道

一イヒワタリケレトモ わたりトハ大勢シテ人ゴトニ云シ
東ヤニ イト子ンヨロニイヒワタリケリトアリ
一粟ヲノミ イ本ニ粟トアリ佳也サラニ米ノタクヒヲ
クハサリケレハルアレハ粟ナルヘシ

呼五月五日賀茂ノクラヘ馬ヲ

此段無常ヲス、ムル也

一クラヘムマ 競馬クラヘムマ

一世人シレ物カナ 癡シレモノノハ、木、ニシレ物ノ

万葉集モノ語ヲセシ 花鳥ニシレ物ナトハサレ物ナトイフ

カコトシ五音相通也

一弄花ニ萬葉第九長歌世間愚人乃吾妹兒介

シレ物師説引之云ヲロカナル物語ヲセシトノ義也

一尤ヲロカニ候トイヒテシレ物ヲロカナル義ニ此詞相

叶ヘル歟

一人木石ニアラ子ハ

白氏文集

人非木石皆有情不如不遇傾城色

心非木石豈忘深恩 遊仙窟 初一念識

異木石生得善生得惡 仁王經 伊勢

物語ニムカシキトコアリケリトカク云事月日ヘテ

ケリイハキニシアラ子ハ心クルシクヤキモヒケントアリ

二甲唐橋ノ中將トイフ人

権大納言三 姦言三 侍從並下

村上源氏又我庶流唐橋 通資 雅親 通頼

権大納言三正三位通次郎者久我内府通親公弟也

參茂忠三 僧希

雅清 行雅

此段天命ヲシラシムル也莊子太宗師篇ノ心也
行雅ノ病ヲ見テ莊子ヲ思ヒ合テ書タル歟

太宗師篇曰知天之所為知人之所為者至
矣俄而子輿有病子視往問之曰偉哉夫造
物者將以予為此拘々也曲僂發背上有五
管頤隱於臍肩高於頂勾贅指天陰陽氣有
診其心間而無事跼蹐而鑑于井曰嗟乎夫
造物者將以予為此拘々也子祀曰汝惡之
乎曰亡予何惡侵假而化予左臂以為雞予
因以求時夜侵假而化予之右臂以為彈予

因以求鴟灸侵假而化予之尻以為輪以神
為馬予因而乘之豈更駕哉且夫得者時也
失者順也安將而處理哀樂不能入也此古
之所謂懸解也而不能自解者物有結之且
夫物不勝天久矣吾又何惡焉

五管發瘡處也 拘、病之狀也 曲僂曲身
貌也 勾贅髭也 跼蹐扶曳而行身也

一氣ノアカル 若菜ノ下 原氏若菜ニ ケノ、ホリ又ルニヤ 氣上

一ウチキホヒケレハ 眉額ナト腫テ目ノ上ヘシ也

一二ノ舞ノキモテ 樂人ノ面也色赤メヲソロシキ也

一安摩トテヲカシキ舞アリ其次ニ舞ヲテノ舞ト云也
一カ、ル病モアルコトニコソ。是太宗師ノ篇ノ命也夫

ト云ニ相當ル也此結句奇妙也一段ノ眼目也

評春ノクレツカタ長カニエンナル

此段又枕草子ノ面カケニテ書タリ不及考之

一エシナルハ ヤサシキ也 艶字ハ俗名ニモ入リ

ウツシキキ
因ハ末段ノ對照而シテ之ノ民公ニ對シテ

甲アヤシノ竹ノアミ戸ノウチヨリ

此段又エンニヤサシキ風情上段ニ通ツル也

一ツヤ、カナル。ウツクシキ心也

一狩衣

一コギサシ又キ コキハコト紫ノ類也 凡物ノ色メニコキト云ハ紫ト紅トノ

色ニカキル也是ハ公家ノ装束ノ事也 指貫ニハ

紫ノ事也濃紫也禁色非色ト云事アリ禁色

トハ綾織物ノ類也非色トハ平絹也色ニ付テノ

名ニハアラス地ノ差別也 杜衣束ニサシ又キハ似合タル

一エハツキタル 似合タルト云義也

一廿、ヤカナル童ヒトリ。ホツヤカニ千イサキ心也。

ハ、木、サ、ヤカニテフシタリ。河海ニ細々サカカ詠サカカ少サカカ。

一イナハノ露ニツホキツ、ソホキハ又ル也。サカカ

引心我思フ人ハ道兼ノ露路ナシヤカクハ神ノ夫ノホツラシカラ花ノ雫ニツホキツ、ウクヒストノ鳥ノ鳴ラン

一ナナラス。ホメタル詞也。エモイハス面白キ心也。

一フキスサヒ。手ズサニ。口ズサニノ類也。

一スサヒニ兩義アリ。愛スル義ト倦心ト有是ハ愛スル

義也。又フキヤム美モアリ。スサヒニ倦スルトタニムトノ両義アリ

一シテ、榻女車ニ榻ヲ用ユ上リ下リノ安キタメ和名集曰。坐盍切之知床也。

車ユカヲスエテツク物也。クラカケノヤウナル物ノ。

一シカク。云云。日本記

一女房ノヲヒ風油ツクリニノアリクツラニ。クキモノノ名ニシニ風ト云アリニ也ヨウイナト。ヨヒ風ハタキ物ノ句也。東

ヤニワナハフヒ給ヘルヲヒ風用意心タシヤニイトカタリナルマテ東ノ里

人モオトロキ又ヘシ。

一虫ノ音カトカマシク。カコツケノ恨カニシキ。亦ケラフハホイサノウノラモ云シ

幻ニツレクトワカナキクス身ノ日ヲカコトカマシキ

虫ノ聲哉カコトハ加言也。又擔心チカラモアリカコツ心

又カコツケ所ニヨリ分別アリツレクト我ナキクス

ノ歌ニハ加言ノ心相應歟。

五公世ノ二位

此段後人ノ怒ヲ制止スル也

一公世ノ二位

閑院ノ末流筆一統正統也為

雄公子洞院

一セウト兄也又兄弟ヲ云也男女二用ヤウカハル事

有女ノ為ニ弟ナシトモ兄ト云男ノタ又ニハ姉ナ

シトモイモウト云セウト又弟姉妹ヲモ云北月夫トモ云

糸相目 糸内春 木大三 糸三 從右中侍 從侍從

實行 公教 實國 公清 實俊 公世

海野井 糸

山良覺 大僧正 護持 東南院公源

法印資快 雅 僧正 灌頂

柳原ノホトリニ

此段人ノ名物ノ名道理ヲ問テキハムヘキト也

今モ柳原室丁邊ニ腰又ケ風呂トテアリ打聞タル

ハ風呂ノタ、又トイフ名ノヤウナシトモタツテ井ラレ

又ト云義也トリナシニ依テ聞アシキ名ヲ付ヘカ

ラスト云段也

或人清水ヘマイリケルニ

毛詩終風ニ 寤言不寐願言則嚏

注曰我甚憂悼而不能寐女思我心如是我

則噫今俗人噫云人道我此古之遺語也

一や、ハ十七タル時、ヤ、トハ人ニ云カケタル詞也ヤ、トハト

云類歟ヤヨ時雨ナト、イヘル心ニテ呼カクル詞也

引一スラキカ片モツカタノ一子カケハ十七、モトクイモニア

ハンカモ 萬葉

古出テユカン人ヲト、メンヨシナギニ隣ノカタニ八十モヒ又共

瑣碎録曰占噴噫之子日酒食郊日大吉辰日

婚合午日喜事酉日客至戌日嫉思亥日君

子思餘皆凶容齋隨筆亦云今人噫噫是不止者必噫噫

祝云有久説我婦人尤甚云

甲光親卿院ノ最勝講奉行

光親卿事 吾妻鏡二十五卷曰

承久三年^西辟七月十二日按察卿光親去月出家法名

親者為武田五郎信光之預下向而錦倉使

相逢于駿河國車返邊依觸可誅之由於加

右坂梟首訖年四十六此卿為無双寵臣又家門

貫首宏才優長也今度次第殊成競戰之思

頻臣君於正慮之處諫儀之趣頗背叡慮間

雖進退惟谷書下追討宣旨忠臣法諫而隨

之謂歟其諷諫申狀數十通殘留 仙洞後

日披露之時武州後悔惱丹府云

又鴨長明海道記ニモ此事ヲ書リ追可勘加之

一ツイカサ子衝重イカサワリコノヤウナル折敷也又築重トモ

書

一ヤンコトナキ事也ヤンコトナキハ幾ニテハホ又タル詞也

九甲老來リテ始テ道ヲ行セントニツコト

此段無常ノス、ムル也

待老來始莫學道古墳多是少年人寒山頌

一スニヤカニスヘキ事ヲイソカテ過ニシ

遁世發心ハ急クヘキ事也然ツイソカテ過來也

アヤ、ルト後悔ノ段也

一ツカノニモハ雲ニタトヘハ草カリテツカヌルホト、

云ヘリ時ノ間也

○耳をふくくニテハ源氏ナトモカタラヌカ

引夏野行ヲシカノツノツカノニモ忘スソ思フイモカ心ヲ

小鹿ノ角ノ東ノ間ハ鹿ノ新ク角ヲ生スル時一

束ハカリニ短キヲ云ト三光院直説云夏野ユク

ト云ル尤時分相當歟

一禪林ノ十因禪林ハ寺号也嵯峨臨川寺ニモアリ

又和州ニモアリ是ハ東山永觀堂也彼永觀律

師ノ往生十因ト云一卷ヲ制作メ道俗ニシメ
セリ其十因トハ

- 一 廣大善根故
- 二 衆罪消滅故
- 三 宿縁深厚故
- 四 光明攝取故
- 五 聖衆護持故
- 六 極樂化生故
- 七 三業相應故
- 八 三昧發得故
- 九 法身同體故
- 十 隨順本願故

以上十因詳彼一卷ニアリ略之

○心戒或云心海欵 新後撰十八回海山人王可ニ命ヲハイカタル人ノ信ヨラン
ウキニハイケル身ニラフヲケシ
辛 應長ノ頃伊勢ヨリ

應長ハ花園院ノ年号也

一 井ノノホリタリ 以ノ字ヲモテ井ノ字ヲセ 伊勢物部氏ニイテイチトアリ 井テハツレテノホリタル也 將ノ字也 井テ

一 院ノ御棧敷ノ 一条大路ノ邊ニアリツル歟賀茂
祭ヲ御見物ノ用意ノ御棧敷トソ。うべうハウダク

一 夕千ヨリタル イ本ニ夕千ヨミタリ 兩義トモニカクシナシ

一 ハヤク跡ナキ事ニハ ニハ 八雲ニハヤクハモトヨリナドイヘル心也

一 龜山殿ノ池ニ大井川ノ

今大龍
龍骨
水車ハ
東坡集
十三有
水車之
結

龜山院ハ八十九代也。嵯峨龜山ノアモトニ山
庄ヲ立テ御隱居アリシ故。ト申也。

一水ヲマカセラントテ

引真管ヲフルアラ田ニ水ヲカスレハ嬉シカホニモナク

蛙哉。西行

引庭ノ面一マカセシ水モ岩越テ外ニセキヤル五月雨

ノウチ 家隆のやまのゆひて 結云調一

一萬ニ其道ニシレルモノハヤンコトナキモノ也。

道ヲ知レル事ヲホメニ爲ニ龜山殿ノ水車ノ事ヲ

書出也

平仁和寺ニアル法師

寛平法皇ノ御養室有ニヨリ御定トス

此段モ前段ノ心也。結句ニ先達ハアラホシキ

也ト云ヲ以テ肝心トスル也。

一石清水トハ今ノ男山也。

貞觀年中ニ和州大安寺僧行教

和尚宇佐八幡ニ參詣メ一夏九十日ノ間晝

ハ大乗經讀誦シ夜ハ誦密咒ヲ八幡夢ニシテ

ノ曰ク行教廻王城ニ我モ亦隨ヒ行テ居王城

ノ側ニ天子ヲホラントノ玉ヲ行教和尚山崎ニ

ツク其夜又夢ニニヘテ八幡ノ玉ヲ行教我所居

卷之八

八

之ヨト仰ラレタシハ夢サメテ東南ノ男山鳩ノ峯ノ
上ニ大光ヲ現シタル程ニ行教天子ニ奏聞申テ
宇佐宮ヲ勸請メ新宮ヲ建立スル也行教ハ幡
神體ヲフカマント祈念スレハ阿弥陀觀音勢至
三像ヲ袈裟ノ上ニ現シ給フ也以上元亨釋書
并神皇正統記ニ有

一カチヨリ 徒歩也乗物ナラスメ辛苦メ參詣也

一極樂寺

一高良カハラノ神 玉垂命ト申也天武二年二月
八日高良訖宣ニ曰譽田天皇御宇為晨昏武

略之健將 一説ニ高良ハ武内神也ト

公卿補任曰武内神大臣孝元天皇五世ノ
孫也在官二百四十四年春秋二百九十五
年但死時并日時人不知之云又云仁徳天
皇五十五年殂薨ス但し年未詳也

一カハカリ カクハカリ也

三手コレモ仁和寺ノ法師ワラハノ

一アシカナヘ 今ノ俗手トリト云物ノ類ナルヘシ

鼎アシカナヘ和名集ニ説文云三足兩耳和五

味寶器也

拾遺集云アヒキスルニシテ
の國のありけりしに後田ハありけりしと見えぬ

一カナテ、舞事也

奏ノハウヨリ歌舞スルニシテ

一文ニモ、醫書ニモト云事也

一クラカニ、枕上也、クラモトノ心也

一カラキ命、辛苦ノ義也、又俗ニ命カラクナト云心也

皇正十五年御書

御室一イミシキ、御書ニイミシキ、御書ニイミシキ、御書ニイミシキ

以上三段ハ皆仁和寺ノ事也、書出ヲ筆法ヲ少

シカヘテ書タリ、御書ニイミシキ、御書ニイミシキ、御書ニイミシキ

一風流ノワリコヤウノ物、フウリウトハヨムヘカラサハル歟

風流ハヤサシキ心也

一破子トハ食物ヲ入ル具也

破籠トモ云リ

藻盤草ニ曰後京極殿寄破子戀ト云題ニテ

引我ノイトアイモカ心ヤコトヘタテカキナルワリコ

ナルラン

おちよとけ并のあはれすまは草ちやうとさむらひのうらみ

一イタウコソコウニタシ

甚傷痛、萬葉ニ云

須摩ニイタウコウシ給ニテハ

花鳥ニコウハ困ノ字ナルヘシタタヒシテタルト云也

一紅葉ヲカク人モカナ

林あまきて秋のあまげも人いひて
おみよをたにけりし法の白名 定家

林間燂酒焼紅葉石上題詩拂縁苔 樂夫

源氏明
石ノコ
田字ヲ
クニヒ
タル心
シテ

一イラナクフルニヒテ。ユトノシクフルニヒタル也。

一ツヤク物モミヘス。前ニウツミタル破子不見也。

一山ヲアサレトモアサルハ求也。求食鳥ナトノ食ヲ求也。

一春ハ只ミナレ又草モナカリケリサワラヒノ井ル山ノタヨリニ

一アノリニ興アラントテ。定家

此結句上ノ段ト兩段ニカ、ル也。常ニ心ニカクヘ

キ事也。

定家ノツクリヤウハ夏ヲム子トスヘシ。造家式ハ居家必用ナシ

問夏ヲム子トスヘシ此一段ノ肝要トミヘタリ然メ冬

サタク登クラシトハ前後相違如何曰ク大カク夏

メ燈クラキ也天井ノ高キアナカク納涼ニタヨリアル

ヘカラスト。造家式ハ居家必用ナシ

一造作ハ用ナキ所ヲ。造家式ハ居家必用ナシ

問用ナキ所ヲツクリタル萬ノ用ニモタツト云事如何

曰ク無用ノ用ト云事アリ造作ニカキラス万事ニ

ワタルヘキ也。

莊子曰知無用而始可與言用矣夫地非不

廣且大也人之所用容足耳然則厠足而墊

ナキヤナクハサカシクニミカキカケト云の事アリ

造家式ハ居家必用ナシ

造家式ハ居家必用ナシ

造家式ハ居家必用ナシ

造家式ハ居家必用ナシ

造家式ハ居家必用ナシ

造家式ハ居家必用ナシ

造家式ハ居家必用ナシ

造家式ハ居家必用ナシ

一イテナクフルニヒテ。ユトクシクフルニヒタル也。樂天

一ツヤク物モ之ヘス。前ニウツミタル破子不見也。正ノ字ヲヨムタルナキ

一山ヲアサレトモアサルハ求也。求食鳥ナト人食ヲ求也。

引春ハ只ミナレヌ草モナカリケリサワラヒノサル山ノタヨリニ

一ア一リニ興アラントテ。定家

此結句上ノ段ト兩段ニカ、ル也。常ニ心ニカクヘ

キ事也。

丑家ノツクリヤウハ夏ヲム子トスヘシ。造家式ハ各家必用ナリ

問夏ヲム子トスヘシ此一段ノ肝要トミヘタリ然メ冬

サムク燈クラシトハ前後相違如何曰ク大カク夏

ヲ肝要トスヘキ也サレトモア一リ天井ノ高キハ寒

メ燈クラキ也天井ノ高キアナカク納涼ニタヨリアル

ヘカラスト。遺戸シヤルノツトハウワカイ下カイノツニ

一造作ハ用ナキ所ヲ。如ク両方セフワスルカツニ戸ニカウ戸ニ云

問用ナキ所ヲツクリタル萬ノ用ニモタツト云事如何

曰ク無用ノ用ト云事アリ造作ニカキラス万事ニ

ワタルヘキ也。

莊子曰知無用而始可與言用矣夫地非不廣且大也人之所用容足耳然則厠足而墊

之致黃泉人尚有用乎。慧子曰無用。莊子曰然則無用之爲用亦明矣。

六^年又シクヘタ、リテ

此段カクレナシ但此下ト此段ハ人前ニテ物カタ

一^一カトトスヘキタシナミヲ書タリ

一^一アカラサマ、カリツメ也。動ノ字ヲ去又白地トモ云

一^一ラウカハシキ、亂カハシキ也

夕貞ニラウカハシキ六路ニタチギカシテトアリ

手ノカターヒタル段ノワロキコソ

○[○]カフカハシキニ條院證はまの如る海の波るあまのまを
○[○]カフカハシキニ條院證はまの如る海の波るあまのまを
○[○]カフカハシキニ條院證はまの如る海の波るあまのまを

此段遁世ヲス、メタル也

一心ハ縁ニヒカレテウツル物

本生心地觀經八卷ニ云心如流水念ヲ生滅

於前後世不暫住故心如大風一刹那間歷

方所故心如猿猴遊五欲樹不暫住故心如

所ヲ定メヤ

之致黃泉人尚有用乎。慧子曰：無用。莊子曰：然則無用之爲用亦明矣。

六^年又シクヘタ、リテ

此段カクレナシ。但此下ト此段ハ人前ニテ物カタ

一^年カトスヘキタシナミヲ書タリ

一^年アカラサマ、カリツメ也。動ノ字ヲ去又白地トモ云

一^年ラウカハシキ、亂カハシキ也

夕貞ニラウカハシキ六路ニタチギハシテトアリ

七^年人ノカタリ出タル歌ノワロキコソ

此段歌物語ノミニカキラス萬ノ事ニワタルヘキ

用心也

八^年道心アラハスル所ニシモヨラモ

此段道世ヲス、メタル也

一心ハ縁ニヒカレテウツル物

本生心地觀經八卷ニ云心如流水念身生滅

於前後世不暫住故心如大風一刹那間歷

方所故心如猿猴遊五欲樹不暫住故心如

即指云少ハハ改ニ出家ト名ハ故ニホトモミ之宿セスト後誤云ニ在リ又秋也

樹ト石ト坐スル一如何也

所ヲ定メヤ

飛蛾愛燈色故心如野鹿逐假聲故云

一ツノウツハモノ 論語曰子曰汝器也曰何器也

曰瑚璉也見公冶長

一ヨスカ タヨリ也

一貪欲才ホキ

諸苦所因貪欲為本若滅貪欲無所依此

法華經

口古又文類聚云僧同字情釋師如何是和尚宗凡曰一紙兼一鉢到處

一紙ノ衾麻ノコロモ一鉢ノマウケアカサノマツモノ

布衾銘

范堯夫

藜藿之甘綿布之温名教之樂德義之尊求之

一馬かしのり人の鳴りのん 常々女綿繡之奢膏梁之珍權寵之

トテ多末三三 取易

スニスフモヤカケテ 瓢萬

後 爲德

諸

羹藜合類者不足與論大宰之滋味

一一鉢ノマウケ 鉢ハ佛弟子受食ノ器也

一菩提ニオモムカサランハ

菩提梵語也

羅什ノ弟子肇公ノ注ニ云道之極者稱曰一ト

云ヘリ故諸師道ト翻シタリ又天台大師ハ菩提ヲ

飛蛾愛燈色故心如野鹿逐假聲故云

一ツノウツハモノノ論語曰子曰汝器也曰何器也

曰瑚璉也見公冶長

一ヨスカタヨリ也

一貪欲才ホキ

諸苦所因貪欲為本若滅貪欲無所依此

法華經

口古文類聚云僧同字情釋師如何是和尚宗凡曰一紙兼一鉢到處

一紙ノ衾麻ノコロモ一鉢ノマウケアカサノマツモノ

布衾銘

范堯夫

藜藿之甘綿布之温名教之樂德義之尊求之

孔易享之常安錦繡之奢膏粱之珍權寵之

盛利慾之繁若難其得危辱旋臻舍難取易

去危就安至愚且知士寧不然顏樂簞瓢萬

世師模紂居瓊臺死為獨夫君子以儉為德

少人以侈喪軀然則斯衾之陋其可忽諸

羹藜含穎者不足與論大宰之滋味

一一鉢ノマウケ鉢ハ佛弟子受食ノ器也

一菩提ニキセムカサランハ

菩提梵語也

羅什ノ弟子肇公ノ注ニ云道之極者稱曰一一

云ヘリ故諸師道下翻シタリ天台大師ハ菩提ヲ

智慧下見ルトモ注シ五へリ

九事ヲギモヒタ、シ人ハ

前段ノ餘論也大事ハ世ヲ捨ル我也

一 大事方便因縁ト佛モ説五フ也

一 千カキ火ナトニ、タル

火事ナトニ、ケテ身ヲタス

家財ヲモステ身ヲタモツ也

一 命ハ人ヲマツモノカハ

ト思ハハ耻ヲ捨テ財寶ヲ捨ニケハシリテタスカル也

然一財ヲ今テ耻ヲカケトモ命ノ死事只今ノ不定

水火ノ難ハノカル、事モ有其ノ水火ノ難ヲノカ

レタル人ヲ待事ナクメ死事ハハヤキエノト云ル也

真乘院ニ盛親僧都トテ

此段徳タケ又シハ行跡ニ許シアル義也

一 ウツタカク 堆

コアシ 銭ヲ云料足ト云也

一 アリカタキ道心シヤ 利欲ヲ離タル事アリカタキ也

一 トハ何物ソトハ シロワルリトハ何物ソ也

一 法燈ハ佛法ニ付テ棟梁也法燈也傳燈大法師

一 ナト云ハ聖道ノ官ニテリ

一時非時。惣々佛家ノ法度ハ正午ヨリ前ニ一度食物ヲ用ル也然ニ少沙弥有テ一食ニ夕ヘスメ嘆シ故ニ終ニ非時トテ晚ニ及テ又一食ヲ用ル事佛ユルシ玉ハリ四分律ノ中ニ見タリ。

御産ノ時甌ヲトス事。甌和名集云如飯也。

直御殿ノ棟ヨリ臚ヲトス也皇子ナレハ南ノ方ヘシトシ姫宮ナレハ北ヘフトスヨシ平家物語ニ書タリ然ニ此段胞衣ト、ヨナルニシ十七也ト云事ト又大原ノ里ヨリユシキヲメスト委云アラハセリ。

一フルキ寶藏ノ繪ニイヤシキ人ノ子ト云。

此句イヤシキ人ノ子ト云ヲ以テニハ上ノ句ニ下サニヨリユトヲコルト云ハカナヘリ平家物語ニ皇子皇女ニカキルヤウニカケルヲ抑テ廿二ハ非ス下廿ニヨリシユレル事ト書タル段也。野植云傍皇。仙谷園繪日

本ノ記録歌出等ニハキラス種ノは宝物ヲシテハラウノ宝託ト云ハ字ハ宝託
運筆王院、宝託、東大寺ノは、託ナトノ教也

幸延政門院イロケナク

延政門院ハ後嵯峨院ノ皇女也。

延政門院ハ後嵯峨院ノ皇女也

コヒシクト云假名文字遺相違ナレトモ皇女御幻

少ノシルニナルヘシ又此時分假名文字遣世三流
布アルヘカラス

明鏡法師ハステニカトモツカヒウ破ニイハレタ
ハモノ類皆ムと云ふ也ト云フ

或人ノ曰如此覺シ召シヨリタル事殊勝也當代
ノ作法ハアマリカヤウノ事ハ委シクメ述作ノ心疎
ナル故ニ是ヲ女何ナト思フ也カヤウノ事ハ付
ヘシト云フ事ハ書クニ見ル

卒後七日ノアサリ武者ハ山ノ邊ニサニハサスナリ
アサリハ阿闍梨也ハハタナヘニ平定寺僧ニ早子

一後七日トハ東寺一ノ長者於本坊元日ヨリ行ア
リサテ八日ヨリ於真言院終之仍号後七日ト云

鹽囊抄曰自元日至白馬神事多キニ依テ七日
ニテハ出家不參内故ニ八日ヨリ始ル御修法ナレ
ハ後七日ト云ト也仁明天皇承和元年甲寅木
師ニ勅メ大内中務省ニ於テ始テ後七日ノ秘法
ヲ修シ玉フ其後表ヲ奉テ永代ノ規式ヲ定メラル
ニ依テ勘解由司ノ廳ヲ改テ真言修法院ヲ被立
今ノ真言院其舊跡也云ハ八日ニ開白メ十四日
ノ結願ニ當テ大師請來ノ袖衣ヲ着曩祖附屬ノ
五鈷ヲ持メ御殿ニ參入メ玉體ニ近付テ二器ノ者
水ヲ加持メ一人ノ諸臣ニ灌奉ル也尚又平

事根源ニモ有

一二年ノ相ハ此修中

年始ノ御祈禱ナルニ警固ト号メ武士兵具ヲ用
テサハカシキ事一歳ノ相ヲタヤカナラヌト云タル也

平車ノ五緒ハカナラス人ニヨラス

五ツ緒ノ事有識ノカタヘタツ子ケレトモ車ノ事ニ五
ツ緒ノサタハマレトモサタカニシラスト云ヘリ大臣ナド
ノ外ハ用ラレシキヤウニアルト

車此の供

公慶

青編糸五緒一ツ

文サ盛革縁

文小靴給

裏ノ縁ハ青内唐縁

上緒不入靴給

車ノ五緒の事をもてはまのる子侍をいハ右のてとてあてはつと

物ニメヨクヌリナシ地ニキ子ナトヲメ箱ノ内ヲニシキニ

テ張テモタル、也ハタヲツキテトアルハ冠ノハタニテハ

アルマシ桶ノハタト見ヘシ

一はしとつてしハ冠が大キリナツタ故ニ桶ノハタヲツキテ高クスル
今ノ能ノ時ニシカケル桶ラズ

六平岡本ノ關白殿紅梅

岡本關白トハ家平公也近衛殿一流也木織

寇ヨリ二十四代人孫也

關白大
号同本

子孫ナシ

家平

經忠

經家

本政大

關白光大
号深心院

關白大臣
号淨妙寺

矣

關白光大
号後厩屋

近衛

兼經

基平

家基

經平

基嗣

此末流

号厩屋

号後淨妙

今人近衛

付鳥枝事

殿也

柴高七尺五寸普通ノ栢木ヨリハ葉セハ夕圓

古クメウラフモスニ毛キヒタリ是ヲ鳥付ル柴ト云也

一統ニ曰タモノ柴ト云モノ也

多シ

柴ノ重キアリ連敷ルヤ多クテ、雄ノ為ニテ付ケ雌

木枝

多ク付ケテハ雌ヲ左ニアケテ付ク春

ハ雌ヲ賞翫スル故也付ヤウウ口傳有略之

或柴ヲ用トイヘトモ春ハ梅秋ハ紅葉ニ付ル事常

ノ義也大臣大饗ノ時是ヲ用ユ又初雪ノ朝

夕雉ヲ人ニツカハス時ノ作法也又鷹野ヨリ人ノ

モトヘツカハスニハ三四尺ノ柴ノ枝ヲ刀メヨツケスマ

本ヲ折ハシラカメ付ル也一雙ヲ付ルヤウタシカニ

シレル人ナシ秦兼則說ハ又四条大納言隆

親卿ノ說柴ノタケ六七尺雌雄一雙ヲ付ル也

寇ヨリ二十四代人孫也

關白大
弓岡本

子孫ナシ

家平

經忠

經家

本政大
抄政園

關白光大
号深心院

關白大臣
号淨妙寺

矣

關白光大
号後厩屋

近衛

兼經

基平

家基

經平

基嗣

此末流ハ

号屋

号後淨妙

今人近衛

付鳥枝事

殿也

柴高七尺五寸普通ノ栢木ヨリハ葉セハク圓

ノウラツモスニモキヒタリ是ヲ鳥付ル柴ト云也

不林...

年ノ内ハ立枝ヲヘタテ、雄ヲ左ニマケテ付ケ雌

ヲサテ付之。年アケテハ雌ヲ左ニアケテ付ク春

ハ雌ヲ賞翫スル故也。付ヤウウ口傳有略之

或柴ヲ用トイヘトモ春ハ梅秋ハ紅葉ニ付ル事常

ノ義也。大臣大饗ノ時是ヲ用ユ。又初雪ノ朝

々雉ヲ人ニツカハス時ノ作法也。又鷹野ヨリ人ノ

モトヘツカハスニハ三四尺ノ柴ノ枝ヲ刀メツケスマ

本ヲ折ハシラカメ付ル也。一雙ヲ付ルヤウタシカニ

シレル人ナシ。秦兼則說。又四条大納言隆

親卿ノ說柴ノタケ六七尺雌雄一雙ヲ付ル也

又大臣大饗元服移徒如此ノ時用之産所
へ遣ツカニハ根ヒギノ小松ニ付也義氏朝臣朝臣説鷹
野ヨリ人ノモトへ雉ヲ送ルニハ柴ナラ子トモ萩薄フキス
ヲハシメテ何ニテモ付也一説ニハ松ニ鳩ヲ付ル
事アリ山鳩也義家ノ朝臣以後不付之鶉ヲ
ハ萩薄ノ枝ニ付小鳥ヲハ紅葉ノ枝ニ付タリ雀
ヲハ竹ノ枝ニ付ル也十月ニハフシ柴ニ付ト云リ
御鷹飼武メテ又カ説也以上河海ヲ引テ書之
一 下毛野武勝 續日本紀ナトニハト野國クモト毛野國ト云リ又
物枝ノサキヤウニサキヲラジ

一 返シ刀五分

一 花ニ鳥ツケストハイカナル故ニカ有ケン

コレハラケヤハ
ホソイサ勝シ
〇アニシチヒモ
ハ尾内ニル
毛ハヨリハ尾
上ニルモ

是ヨリ異本也此本善也此段ノ初ニ下毛野武
勝カ花ニ鳥ツクルスヘシリサアラハスト云タルヲ伊勢
物語ヲ引テ武勝ヲ打テ書タルヤウ也作花ノ事ナ
ト了簡ノ覺悟可有吟味者也

此段少シ河海ノ説ヲ書タレトモ鷹ノ道ハ其家ニ
ノ作法數多アリト云又時代クノ習アリト聞ユニ
向シテ又道ナレハ不及注釋之ヨリク能ク知ラシ
人ニ可尋究之而已

卒賀茂ノ岩モトハシモトハ業平實方也

在原業平朝臣者四品阿保親王第五男也
仍号在五中將也母伊豆内親王也從四位
下右近衛權中將兼美作權守元慶四年五
月廿八日卒年五十六 見河海

諡號也

真信公

五条九香

侍從五上

右近衛下陸奥守

師尹

定時

實方長德四十一

号少平

号少奈

月十三於任國薨

藤原實方ハ中將ニテ成シ人也禁中ニ於テ行
成卿トテヲソヒ有テ冠ヲ打落シタル其咎ニ依テ歌

枕ヲ見テ參レトテ奥州マテツカハサル則彼地ニテ

卒云々其後西行下向クキモセ又ソノ名ハカリノト

メヲキテカレ野ノス、キ形見トソナルトヨミシト也

一吉水ノ和尚 和尚ヲ聖道ニテハクハシヤウトヨミ

禪家ニテハヲシヤウト云也

山内、六十二代在ま也

慈鎮ノ事也法性寺殿ノ御子也東山吉水ニ

住五フ也今ノ丸山ト云所也慈鎮ハ諡号也

下卷八十九ノ下ノ注ニ詳也

一月ヲメテメテハ愛スル義也

今出川院近衛トテ集共ニアマタ入一作文詩

序ナト 一本ニ作文シ序トアリシハ詩ノ字ヨシ
今出川院トハ龜山院ノ后常盤井相國實氏
公ノ孫中宮嬪子也即西園寺公相公ノ御女
也弘安八十三尼二十一才文保二四十五
崩六十七才近衛トハ近衛ノ局ノ事也即大
納言伊平カ女也伊賴卿覺道上人實伊僧
正ナトノ娣也 井蛙抄ニ見
井蛙抄六曰近衛局九歳ノ時ヨリアツ氷ト云
歌ヲヨミ續古今ヨリコノカタ五代ノ勅撰ニ逢テ
歌數モア一タ入詩ナトモツクリ兼作集ニモ入佛

法ニモ立入 一生不犯ノ禪尼也法華經十萬
部ヨミシウルハシク官仕ナトモセス續古今ノ時五
月ニ菖蒲重衣キテ今出川院中宮ト申ニ參テ
權大納言ト申サレキ歌コトニ又ツラモク優美ニヨ
コレシ人也

新拾遺 今出河近事
恨ニモ猶ニタフカナニサノワラサミシラヒナケレハ

卒笠紫ニナニカシノアフリヤウシ

此段信仰ニ奇特アル事ヲ知ラシムル也土大根
ヲサヘ信スレハカク奇特アリ況ヤ佛神ヲヤノ心也
アフリヤウシハ 押領使

一土才ホ子 土大根也

苦田 和名集 菜菔 蘿菔

卒書寫ノ上人ハ法華

釋性空平安城人大中大夫橘善根之子也
年三十六出家尋人跡不至鳥音不聞之深
山乃徃日州霧鳩法廬而居或隔數日而食
或不食而歷旬或夢中受美膳覺後肚裏能
飽余味在口或從經卷內忽爾精白粳迸散
或煖餅出其味非常是以雖苦行絕食身體

ウトキモノニニハキシロクノミヤノメカサレセ下ニ白ク定メ來告

入ニテ尺ハ能キユニ元ニ豆カラソノイニグシハハ我ニヨリ一峯山居此
子ハカサキト接ヒ得ラタス棟梁ノ写キニモモトヤメニキキ
結庵ヲ西洞ニ

茅薦為席紙ヲ為衣山禽野獸無機自馴漸
創精藍ヲ号圓頓寺空於山中每歲三九月
轉妙經ヲ為州民之福偶因事二年闕典於春
三月空如廁長尾ノ靈禽居傍樹鳴曰春秋
訶缺二年ノ會讀誦還テ勤一乘經ヲ空書以鳥
吟ヲ告衆復會
又曰增賀法師在多武峯求上紙空送之賀

一土才ホ子 土大根也

苦田 和名集 菜菔 蘿菔

卒書寫ノ上人ハ法華

釋性空平安城人大中大夫播善根之子也
年三十六出家尋人跡不至鳥音不聞之深
山乃徃日刈霧鳩法廬而居或隔數日而食
或不食而歷旬或夢中受美膳覺後肚裏能
飽余味在口或從經卷內忽爾精白粳迸散
或煖餅出其味非常是以雖苦行絕食身體

肥滑ニメ光彩過人——永延二年化人來告

曰播州有山曰書寫是隴巔之一峯也居此
發菩提心得六根淨空至彼山結庵ヲ西洞
茅薦為席紙ヲ為衣山禽野獸無機自馴漸
創精藍ヲ号圓頓寺空於山中每歲三九月
轉妙經ヲ為州民之福偶因事二年闕典不春
三月空如廁長尾ノ靈禽居傍樹鳴曰春秋
訖缺二年ノ會讀誦還テ勤一乘經ヲ空書以鳥
吟ヲ告衆復會——
又曰增賀法師在多武峯求上紙空送之賀

歎曰空公者其淨六根一見元亨釋書二

一六根淨ニカナヘル人 眼耳鼻舌身意是ヲ六根

六根淨ノ人ハ善ノ不鳥歎ノ善ニ通メテハトシテハ善ノ極ニ至リ

一大豆ノカラシタキテ

世説曰魏文帝嘗令東阿王曹植七步作詩

不成者當行大法應聲為詩曰煮豆持作羹

漉豉以為汁其在釜下然豆在釜中泣本自

同根生不相煎何シ太急や帝深有慙色七步

詩ヲ以テ性空ノ六根淨ニトリ合タル也

元應ハ清暑堂ノ御遊公部會ノ御遊

元應ハ後醍醐ノ年号即兼好在世ノ時代也

一清暑堂ハ内裏殿ノ名也

清暑堂御遊トハ大嘗會ノ時ノ事也

一玄上二字共清琵琶ノ名也禁秘抄ニ由來詳

也枕草子ニ玄上牧馬并尹渭橋無名ナトアリ

一菊亭ノヲト、兼季公、右大臣也

一牧馬ハ琵琶ノ名也

玄上、玄象トモ牧馬與玄上一雙名物也時

人不辯勝劣爰有信義信明兩人不知勝劣

初信義彈玄上信明彈牧馬更無甲乙信明
彈玄上信義彈牧馬其聲雲况故時人皆信
明超信義玄上勝牧馬云 在古事談

一千ウヲサクラレケレハ 是ノ義此段ノ眼目也用心

諸藝ニワタルハキ事也

琵琶ノ柱ハ四ツアリサトウノ琵琶ノ柱ハ五有也

ヒラニテハチウノ琴ニハモトク

下名ニキクヨリヤカテキモ影ハ

此段カクレナシ誰カ心モカクアルヘキ物也

三イヤシケナルモノハト

一作善キホク書ノセタル 是テハ多クデアシキ物ヲ

云也 其ホクテミクルシカラヌハト云ヲ中ニヲキテ上

下ヲユトハリタル文ノアヤ妙也

毛詩七月篇二七月在野八月在宇九月在戶

十月蟋蟀入我床下 是蟋蟀ノ字ヲ中間ニ

安在メ上下ノ文自明也 源氏物語ナトニモ此

文法アタタリ和漢通同スル事奇妙也

一アクルマ 文車也今モ禁中ニアリト東寺ニモアリ火

事ナトノ時其一、引出ン為ノ物也

一千里ツカノ千里 塵ヲ捨ル所也

三世ニカタリツタフル事

此段世上ニ云イタス事ノ虚實ヲ分別シテ覺悟スヘキトノ義也

一ノイナキ 無愛 河海ニ無間源語類ニウラフ云

事トアリ 桐壺ニアイナウ目ヲソバメツ、トアリ

一カタクナ 頑カタクナシ

一ウキタルコト 浮辞虚浮トテノタコトノ心也 虚言也

一ハナノホトキ 動イソノ微笑メ語 ヲメキテ 笑シキヲ子ニシタル心也

ハ、キ木ニハナノワタリキコメキテカメリナス

一ツニクハシク也

一キツロシキソウコトナリ ヲク人ヲハカルヘキ心ナレハ

ソロシキ也

一我カタメ面白アルー是ヨリ又ソラコトノ定ヌル

ツノ品也

一ヨキ人ハアヤシキ事カメラス

君子不語怪力亂神ヲ 論語述而ニ

一カタハイヘト佛神ノキトク權者ノ傳記サノ信是ニテ上ヲ、サヘテ佛神ノキトクノ書タル尤殊勝也但

サノミト云字心ヲ付ヘキニヤ

孟子曰采信書不如無書トアリ

一 喜カマシク 嗚呼ト書ヲカシキト云心也

四 蟻ノユトクニアツマリテ 文選蟻同ト云

此段人間ヲ蟻ニタトヘタル事内外ノ書典ニ及シ

然トモ爰ニテハ世俗ニ蟻ノクニノイリスルト云如

クナル義ヲ心ニモキテ書タル歟畢竟莊子齋物篇

ノ心也 夫擡功名之會媿姘一世其與蟻丘亦有辯乎

一 云白蟻戰酣千里血黃梁炊熟百年休功成

名遂人間世欲夢槐安向此游 豫章文集

一 其來ル事スニヤカニシテ念クノ間ニト、ニラス

莊子曰與物相刃相靡其行盡如馳而莫之

能止不亦悲乎終身役不見其成功恭然

疲役而不知其所歸可不哀耶人謂之不死

爰益ヤアラン 一 常住ナランコトヲ思テ變化ノ理ヲ

變化ノ理トハ萬物ノウツリカハル理也天地ノ間ニ

在ル所ノ物スヘテ變化ノ理ヨリ生スル也形ヲ不

改メカハルヲ變ト云形ヲハナレテカハルヲ化ト云ソ
莊子ニ已化ノ生シ又化メ死ス生物衰之人類悲
之注ニ物之初生本無ニメ而有又化メ而死ス
ル則是既有ニメ而無同乎一理ニ而人物之類
自以テ爲悲哀ト愚惑也

時ツレクワフル人ハイカナル心ナラン
一其段餘論也靜ニメ性ヲ守事ヲ肝要トスル義也
一マコト道トハ諸法實相ノ理也
一生活人事

坐禪工夫ヲ妨ル世俗ノ業ノ事ハ云ニ及ハス學
問ニテモ靜室ノ外ハリト成事ヲ分別メ諸ノ緣務
ヲ停止スル事ヲ止觀ニアカシタル也

止觀四曰緣務有四一生活二人事三伎能
四學問ト云ヘリ生活トハ身命シツカンタメソレ
クノ作業也人事トハ人間ニ交リ万事ニアツ
カル事也伎能トハ伎藝ノ能ニカハル事也學
問ニテモ停止メト云事也詳事ハ止觀ニ見タ
ル其道シラサルホトニ不具也

持世ノキホエ花ヤカナリ（信長）威勢ヲ兼テ人ノ

此段カクシナシ前段ノ學問ホノ諸縁ヲサヘヤメヨ
ト云ヲ殊更法師ノ上ニ引ウケテ次第シタル也

持世ノ中ニツノ比人ノモテ

前段ノ餘説也カクシナシ（信長）命ヲシテ人ノ

持今ヤウノ事トモ（新采府）時勢ヲ辨トキニヤウノ事トモ

是又前ノ段ノウケテ書タリ（信長）命ヲシテ人ノ

持ナニ事ニモ入タラヌサマ

一サレハ世ニハツカキカタトハ心ニラキ人ト云心也

今人コトニ我身ニウトキ事

此段ワルクトモ我力道クヲセヨト云義也（信長）

一エヒスハ弓引スヘシラストハ

遠田舎ノ武士ハ弓馬ノ道知又也（信長）

一法師ノモニアラス

前段ニ法師ハツハモノ、道ノタテト云ヲウケテ書タ

リハミノ字ニテ上達部殿上人ニテモカ、ル也

一上達部公卿也。殿上人ハ四位五十一六十一アリ

兼好元弘。建武ノ亂等ヲ見及シ人也

一モ、タヒタ、カヒテ百度勝トモ

太宗問對曰攻守者一而已矣得一者百戰

百勝故曰知彼知己百戰不殆其知一之謂乎

一兵ツキ矢キハハリテ

撮髮兒男重主恩。兵疲矢竭死無門

秋高若遇南來鴈。休說劉家李廣孫

一タタラス。不降。カウサンセ又也

孫破月宿軍也

李陵、李廣カ

一死ヲヤスクレテハレメテ名ヲマラハス道也

武士ト云モノハ名ヲ後代ト云傳ヘタリ然ラハ此

世ニイケランホトナラハ武ヲ好ムヘカラスト也

ソノ家ニアラスハト書タル所眼目也

一屏風障子ナトノ

此段モテル調度ニテ心ヲ付ル也前第十ノ段ニ大

カタ家居ニコソトサマハヲシハカナルレトアル其類也

一ツイエモナクテ物カラノヨキカヨキナリ

此結句萬事ニワタルヘキ也。可甘心也

斗ウス物ノ表紙ハトク損スルカ

源氏ニ五ノチクラノヘウモトアリ羅ハウスセノト讀

一頓阿カ愚問賢注ト云書アリ後普光園攝政良

基公頓阿法師ニ對メ問答シ玉テ頃歌ノ風體

ノ異風不吉ニナルヲ正風體ニサントテ此問答

アリ後世ノ龜鑑ト思給ヘル本意ト也頓阿ハ者

小野官大納言能實ノ後胤也廿四歳ニテ叡

山ニ於テ修學メ其後高野ニ詣テ名ヲ頓阿ト改

テ歌道一學ニ住不初ハ泰尋ト云貞治二年ノ

時分ハ頓阿七十三四歟以上堯孝末流鳥

井小路ニチ從厚アツク力注説也

小野宮大納言京極攝政師実公子花山院家元祖家忠之弟也

能實ヨシノミ全春皆以下法師也仁春仁尋仁譽泰尋道

世ハ号頓阿又号感空

一羅ハカミシモハツレト一是ハ頓阿カ云タル詞ヲ兼

好カ書タル也頓阿時代貞治二年ニ七十餘年

也後醍醐天皇ノ御代也兼好モ同時也ヲナシ

時代ナレトモ頓阿ヲ崇敬メ書タル成ヘシ

一ラテンノチク螺鈿軸卷本ノ軸ニ具ヲスリ入ケルヲ

云也

源氏ニ羅て人の傳子トアリ

一キホエシカ 此カノ字清テヨムヘシ

一弘融僧都

一イキノフルワサナリトハユフニヤサシキ心歟

一源氏ニヨハヒノフルト云詞多シ心通歟

一内外ノニモ章段ノカケタル事ノニ

内ハ佛道外トハ儒書也

天台止觀モ十段ノ内七段ニテアリニ二段カケヌル

ト也毛詩モ二百十一篇ニ孔子ノ刪定メラレタ

レトモ六篇カケテ三百五篇アリ大學ニ格物致知

善好カ
心ニ早段
ノ缺ヲ非
有善カ先
賢之各
有缺文
平代武

ヲ朱喜補之其外内傳外傳文章篇段ノカケタ

ル事不可勝計也

此段并下ノ段充滿ヲ慎タル義也歌器ノ教誡

ヲ示スモノ也

吟竹林院入道左大臣殿

公經公五世

西園寺 公衝公ノ事也号竹林院左府ト

一ノカニニテヤニナン 一上ハ左大臣人事也

左大臣關白ナレハ右大臣一ノカニ也節會ノ時

内辯ツトメ玉フ役者也

一洞院左大臣殿 洞院實雄公從一左大臣号

山階ト

一相國ノ望 相國ハ太政大臣ノ唐名也

一元龍ノ悔アリトカヤ

易乾卦 上九元龍有悔象曰元龍有悔盈

不可久也又曰元龍一トハ窮之災也

又曰元龍有悔與時偕極元之為言也知進

不知退知存而不知亡知得而不知喪

一月之千テハカケ 釋名云月ハ缺也滿則缺

一物サカリニシテハギトロフ 盛者必衰

経法顯三蔵ノ天竺ニワタリテ

經蔵ノ中ニモ法顯傳トテ一卷アリ又高僧傳

第三卷ニモ載タリ晋ノ安帝隆安三年己亥ノ

歲渡天セシ人也

一故郷トハ震且國也

一漢ノ食ヲ子カク 是モ故郷ノ食ヲ子カク也

漢ト云ハ漢朝ト云事ニハテラス天竺ニテ漢ト云

タルハモロコシト云心也

一法師ノヤウニモアラス

弘融僧都カ詞ヲホメタル也凡出家ハ身ズテ世

塵ヲ截斷スルヲ以テ本トスルニ因テ物哀ヲモ不
知情ナキ類ノニ多シ然ルニ此僧都世人ニ超過
スニフニヤサシキヲ以テ後來ノ法師ニ知ラシムル
也此段又弘融僧都カ佳言ヲノフル事前段ニ
同也

評人ノ心スナホナラ子ハ

秦擔曰若有一箇ノ臣斷トメ号無他技心休
休焉其如有容焉人之有技若已有之人之
彦聖其心好之不啻若自其口出寔能容之

以能保我子孫黎民尚亦有利哉人之有技
媚疾ノ以惡之人之彦聖而俾不通寔不能容
以不能保我子孫黎民亦曰殆哉豈能其善
又見賢而不能舉之而不能先命也見不善
而不能退退而不能遠過也好人之所惡惡
人之所好是謂拂人之性菑必逮夫身同大
學第十章命注當作慢又當作怠

一スナホ 廉直也

一大ナル利ヲエンタメニ 賢ヲ愚人ノツル詞也

一下愚ノ性ヲツルヘカラス

論語 陽貨 上智與下愚不移

一 伊ッハリテ利ノモ辞スヘカラスルハ

一 愚人ハイツハリテモ辞スヘカラサル也

一 狂人ハ子トテトテ狂人走レハ不狂人走レ 禪話

淮南子曰 狂者東走 逐者東走 東走則同所

以東走則異 而私曰 心ハ別也

一 惡人ハ子トテトテ惡人走レハ不惡人走レ

揚子法言ノ二二曰 人之性也 善惡混 脩其善

則為善人 脩其惡則為惡人

一 驥ヲ學フハ

揚子法言ノ一曰 晞驥之馬ハ亦驥之乘也

晞顏之人ハ亦顏之徒也

惟繼中納言

イ本伊嗣一アリワルシ

惟繼中納言平氏西洞院嫡流也 元德二任

權中納言建武二任 文章博士 曆應五 出家

七十七歳法名冥儀 康永二 四十八歳七十

八歳

一 風月ノ才ハ詩歌ノ才也

一 トメルハ 達シタルト云心也

凡雅集
思待恋
心ヲ田
申
香ノ向ハ
推モ人メ
シツクメド
フルツラ
テク心
ニゾミツ

一圓伊僧正トハ伊平大納言孫也頼平者大炊御門家右大臣師經公弟也

一文保トハ花園院ノ年号文保元年四月廿五日

三井寺ヲ台徒トメ燒之

一寺法師ノ圓伊僧正寺法師トハ三井寺ノ僧ヲ

云也山法師トハ山門ノ僧ヲ云事明曆也

一糸乃句 糸乃逸ノ詩歌ヲ云マシテコトニテハ六部諸ノ歌ナリ

下部ニ酒ノニスル事ハ

下部トハ下劣ノ者ト云心也

一心スヘキ事也トハ心遣スヘキト也トニメク 最嬌 日生 日本記

一申ムツヒトハ 申通シムツニシタスル也シタシムス 昵ムツニシ

一ハルカナルホトナリトハ具覺坊力詞也

一ヨ、トノニヌトハサレウケクノム貞也

夕影ノ卷ニヨ、トナキヌトアリヨ、ハナク聲也ト

君ニヨリヨ、くくトヨ、くト子ヲノミソナクヨ、く

くト六帖 源語類ノニヨ、ハ能クトアリ今

ユ、ニテハヨクくトノムト見ヘキ歟

一トコリ候ヘトイヒテトハヤルニイソクト云心也

一ウツシ心ナクトハ現心ノナキヲ云現心萬葉ニ源氏

語類ノニウツシ心ナラヌトハ狂亂心也トアル

一マケテハ理ヲマケテトワヒタル也ケノ字濁ルヘシ

一ク千ナシ原 木幡ノ邊皆ク千ナシ原也

胡木幡山アルハサナカラロナシノ宿カルトテモコタヘヤハ

セン 知家

一二ヨヒフシタル 呻吟

九アルモノ道風ノカケル

此段愚癡ニメセンカタナキヲ啼ル也

一道風ハ從四位上木工頭道風朝臣寛平五年二

誕生メ村上ノ天皇康保三年十一月卒七十

一歳河海ニ云木工頭小野道風正四位下叅

議峯守孫大宰大貳葛絃男トアリ

一御相傳ウケル事ニ侍ラシトモトハ

御相傳實ナキ事ニテハアラシト也

一四条大納言公任卿康保三年ニ誕生メ万壽三

年ニ入道六十歳其後二三年モ存生歎未考

之道風死去ハ公任卿延生ノ年也朗詠編

集事三十四年モ後タルヘキニ可笑

朗詠大二條關白教通ヲ聳君トメ引出物撰書

シタトイヘリ異朝ニモ如此類アリ説苑曰

宋愚人得燕石蔵之以爲大寶 相中記曰

陵有石燕過風雨則飛テ如眞燕晴日無能用愚者藏之以爲寶 周客聞而觀之主人齋七日端冕元服發寶革櫃十重提巾十襲客見悅而掩口胡廬而笑曰燕石也主人大怒曰盲瞽之言藏愈固愈謹 書言故事ニモ見タリ

卒チク山ニ子コマタリイフ

心ノトリクニ愚ナル事ヲ論メ前段ニ次第ル者也
一タトハ物ヲヘタル名歟ユ、ヲニモ子コノヘアカリテ子

コニ又ニ成テトアリ

貓 和名集 祢古麻

一何阿弥トハ何ハ名ニアラスタシカナラ又心也

一行願寺 小川ノ革堂ノ寺号也

一松トモトモシ 炬火也 松明也

一連歌ノカケ物トハ賭勻會曰博奕取財也

一飼ケル犬ノ一此段ノ理ヲ一言ニテ注シ盡シタリ

一十奇妙云々

一犬納言法印ノメシツカヒケル乙 鶴丸

ヤスラ殿 安良ト書乎

一袖カキアハセテトハ禮儀ノ體也ハキヨシハ又ル體ナルヘシ
一ナトカ、シラハカリノ之エサリケシ

此奥ニ人ニツクレテ四十九日ノ佛事ニアル所聖

ヲ請シ侍シニト云段ノ結句ニ劍ニテキリ心ニタリ

ケルニヤイトキカシトアリ此結句ニ心相似タリ一

段ノ大意モ須同意歟

赤舌日トイフ事陰陽道

赤舌日トハカナコヨミニシヤクト云日は也即赤

口日也 通書大全ニ曰赤口日ハ忌會客證

事買賣トアリ 又云主口舌宜爭トアリ考之

ヤウニ長曆ニモアリ其上カナコヨミニアル程ニイラヌ

ソ今案ニ通書大全ニ赤口トアリ此草子ニハ赤

舌ト云口舌ノ字ノ相違ナレトモ異字同意也

赤口ノクシヤウ

赤口 小吉 七正月ハ三日九日十五日

廿一廿七

速喜 空亡五十一 八二月ハ二日八日

十四日 廿 廿五

カキ曆ニ
トク
アリ

毛留連 大安六十二 九三月八一日七日十

三十九廿五

一無常變易ノサカヒ

サカヒトハ境界也此段佛法ヲシテクシクアラハシ
タルモノ歟又時日ノ吉凶無キ事ハ沉顔カ説ヨリ
書タルナルヘシ

時日無吉凶弁

沉顔

見千事文類聚

古者國家將有事乎我祀必先擇時日以定其
期是用備物於有司習儀於禮寺俾致其慮而
戒其誠非所以定吉凶決勝負也後之惑者不

詳其故推考時日妄生穿鑿斯風不革拘忌益
深至使凡庶之家將欲越一溝隍折一葭葦必
待擇日而後爲之搆一衡宇薙一捧蕪必審方
位而後爲之且吉凶由人焉繫時日夫四達之
衢輪蹄未嘗息也五都之市貨賄未嘗絕也萬
家之挾斤斧未嘗息也五都之市戰伐未嘗已
也其凶也必由於人其吉也必由於人故吉人
凶其吉凶人吉其凶一於人之所爲而已矣然
則惑者不知其在人也有一不吉則罪於時日
矣且以不謀之將不諫之士有能以時日勝者

乎不耕之士不實之穀有能以時日種者乎以
鐵為金以石為玉有能以時日濟者乎是皆不
能也則時日於人何有哉夫王者之兵以德勝
必霸者之兵以義勝其次以智其次以勇故古
之名將未嘗不以此而戰勝也未嘗不以此而
立切者也

等入ル人弓イハル事ヲナラフ

一ワツカニニツノ矢トトト是ヨリ上ヲ釋シタル詞也

一道ヲ學スル人夕ニハアシタラシラン

一朱文公曰勿謂今日不學而有來日勿謂

今年不學而有來年日月逝矣歲不我延

嗚呼老是誰之愆

一刹那ノ内ニ一彈指須六十五刹那

一ナンソタマイノ一念トトト

一輪一念ノヲコル所ニ隨テ其二テ道ヲ修スル事ノカ

タキト也

半ヲ賣物アリ買人アスソノ

此段人欲ニシホハシテ自己ノ樂ヲラスレイタツラニ

他ニ求ル事ヲアカハ也段ノ内ニ問答ヲナス也
牛ノウリカヒ故事本説アル事ニヤ未考

一日ノ命萬金ヨリヲモシ

大智度論曰設滿世界寶無有直身命

一鵝毛ヨリモカルシ

韻府ニ曰千里鵝毛且同千里寄鵝毛杜

鵝毛ハ千里ノ贈所重以其人下谷

一イマツカハシク勞メ也

一此コトハリトハ牛ノ主損アリトイヘトモ大ナル利有ノ

理也

一モシ又生死ノ相ニアツカラストイハ誠ノ理ヲ得

タリ若又生ヲモタノシニ死ヲモソレス哀樂心ニ

アツカラサルハ眞實ノ理ヲ得タル人也其機ノ前

ニハ此コトハリアルヘカラサル也

一人イヨクアサケル

弥ノ字上ノ詞二人ニナアサケリテトアルニ依テイ

ヨクト云タリ此アサケル人ハ愚人ト指也此段

自他問答メコトハル也

五^九常盤井ノ相國

相國八寶氏公也。西園寺流公經公ノ息也。歌人定家郷弟子。

一北面。上北面下北面トテアリ。上北面ト云ハ諸大夫也。下北面ト云ハ五六位皆譜代ノ侍ヲ云也。

一アヒ奉リテ。北面相國ニアヒ奉ル也。

六箱ノシリカタニ緒付ル事。

一軸ニツケ表紙ニ付ル。

一軸トハ左表紙トハ右也。昔ノ文箱ハ卷物ナリ。

ヤウニ一方ニ付タルト見ヘタリ緒一筋也。

左右ノクワンヲ引トフメ一方ニテ一結ヒムスブ也。結ノ方ヲ付ルトハ云ヘシ。

七メナモミトイフ草アリ又ナモミト云草説々不同。稀蒼

地菘。天名精。鶴虱。以上今世俗訓也。

和名集曰。泉目ト訓ス。天名精ト訓ス。

稀蒼本草ヲ考治蛇咬説ナシ。莖葉頗同蒼耳。

ニトアリ。此故ニ今俗メナモミト云也。

地菘本草曰。地菘即天名精。鶴虱ハ是實也。

主蟲蛇螫毒按傳之云

又本草蒼耳ノ条下ニ治毒蛇并射工等傷嫩葉
一握研取汁温酒ニ和メ釀之將滓厚罨所傷

處ニ

私云猪荑世俗ニメナモト云是也

天名精 地菘 鶴虱ハ一物也但鶴虱ト云ハ

實也サレトモ通メイツレモ世俗是ヲハイノシリ草

ト云也蒼耳ヲモ蛇咬ニ付ルト見ヘタリトイヘトモ

ニテ付トアルナレハ地菘ノ説此ツレクノ説ニ相合

也所詮今クハニニサレタル人アラハイノシリ草

ト尋テシカルヘシ當時ノ俗稱ヲシリヤスカルヘシ

但兼好時代ニハ地菘ヲメナモト云タルニヤ

字一割大闇ノ路ナクダニニ蘇敷魚鱖ノ草ト

ハソノ物ニツキソノ物ヲツイヤシ

此段本説證例アルヘシ未考也

カウトキヒシリノイヒヲケル

一シヤセニセスヤアラマシ

此下第百廿六段ヤラニニアラタメテ益ナキ事ヲハ

改又シヨシトストアリ其段ニ同シ

高有擁焉 先驅者矣 高有養民 弟子之鐘 而猶不省 孔子後生 亦不免以 治生之事 宜獨吾 儒為然也 徒眾勿 留隔宿 至食時 著衣持 鉢出外 乞食然 未世而不 能行如五 租六租 未始不種 田未始不 儲穀何 得一陳 隆古事 律

堀河相國トハ父我一門基具公也

一大理トハ檢非違使ノ別當ノ唐名也

一廳政ヲコナシケルトハ檢非違使ノ廳政ヲコナスル也

一メテタクトハケツコウニ作リアラタムヘキト也

一被仰ケルニトハ相國ノ被仰也

一上古ヨリトハムカシヨリト云心也

一古弊ハフルクヤフシタル也

一父我相國ハ殿上ニテ雅實公也

一土器ヲカハラケトハヨムヘカラス節會ノ時ノ盞也

ニカリト也是美也云殿上人定也云ラニカリト云ハ平内四位上位大佐殿上人也

シタハ也是フ殿上人ト云細メ是堂殿ニ着テ念セシク其ハラ其堂盤ララマラト云其食

ラ行フクハ必トトミタリ殿上人給ト云心同ヲ云ニ思直ルモイフ此心同也時ノ

格 劍上ハ各ラ悉ク記ス也ニカリノ字 鏡ノ字ハヒト長味子思ヘリサセ日本紀カニ卷

玉鏡ヲ玉ノニカリト云一云ハ玉鏡ヲ鏡ト云ハ兼云云モト部兼使モ鏡ハ

被ルニカリト思ヘリ和名具云金鏡云或云具ラスリニ依ルハ飲器ラニカリト云

ミタルヘキト云事ヲ推量也追テ考之

一或人在大臣ノ節會

一任大臣ノ節會ハカク節會トテ階ノ間ヨリ西ハカリヲ

一内辦 其日ノ一ノ座也

少ヤキ ワケモ 物シ 負徳ハ 今ハヒヒ ヤソノヤ ナモノト イヘリ

高有極焉 先驅者矣 高有養長 弟子于鐘 而猶不自 有乎假使 孔子後生 亦不免以 治生之事 宿獨吾 儒為於世 尊特哉 徒衆勿 留隔宿 之報每 至食時 着衣持 鉢出外 乞食然 未世即不 能 租 未 得 儲 得 隆 律

堀河相國トハ父我一門基具公也

一 大理トハ檢非違使ノ別當ノ唐名也

一 廳政ヲコナシケルトハ檢非違使ノ廳政ヲコナスル也

一 メテタクトハケツコウニ作リアラタムヘキト也

一 被仰ケルニトハ相國ノ被仰也

一 上古ヨリトハムカシヨリト云ハ心也

一 古ノ...

Handwritten marginal notes in smaller characters, including the word '土' and various annotations.

土ニテ作り馬上盞ノ如クナル器物也トキト云也

一 一カリ貝ヲシカキテコヒラヘタル水ノミアリツレヲ一カリ

ト云田舎奥州邊ニ多シ今堂上カタヘ尋又レトモ

近年用ラレサル故ニヤシラレタルカタナシ貝ノ水ノ

之タルヘキト云事ヲ推量也追テ考之

一 或人任大臣ノ節會

一 任大臣ノ節會ハカタ節會トテ階ノ間ヨリ西ハカリヲ

搦テ行フ也是西禮ノ儀也

一 内辦 其目ノ一ノ座也

少ヤキ ワケモ イヤラ 負徳ハ 今ノヒト ヤソノヤ ナモノト イヘリ

桐ノ字 一カトトモ 一ト程ム 被仰也盞 人ウチ水 一カトトモ 一カトトモ 一カトトモ

一宣命時ノ大内記ノ書テ出不役也

一堂上セラレ紫宸殿へ也

一シキライ失禮也過失ノ義也

一六位外記少内記ト云五人アリ

一康綱中原康綱正六位上權大外記曆德

治以來五代從五位下日向守源重尚男德

治年中改姓中原

平字
甚
戸

平大納言光忠入道イ本尹大納言佳也

權大納言光忠正二位彈正尹六条内大

臣有房公男大平記ニアル千種宰相中將忠

顯ノ父也

一追儼ノ上卿ヲツトメ追儼上十九ニシルス

一洞院ノ左大臣殿實泰公又号後山本ト

一次第ヲ申請ラシ追儼ノヲコナヒヤウノ次第也

一又五郎男ヲ師トスルヨリ外ノ才覺候ハシ

今モ五山ニ入院秉拂等ノ次第行堂ヲ師トス

ル類多シ論語樊遲清學為圃子曰吾不如

老圃

一衛士トハ衛門兵衛ノ被官火ヲタクモノ也

一軾 小半疊ノウスヘリ也 名目抄ニ膝突ト書
一火々キテサフヲヒケルカ 右ニ公事ニヨクナ

レタルモノ也老タル功者ノ衛士也

引之カキモリ衛士ノ多ク火ノ夜ハモエヒルハ消ツ、物ヲ

ユソオモヘ、ソツフヤキケルサヤク、ハツクワノ原氏ノ

詞マリー 河海 論 鳴 山

四 大覺寺殿ニテ 後宇多院也

此段公明ノナソクヲ忠守腹立メ座敷ノ無興

ニ成テカリ出タリ後來ノ覺悟トメ書シルシタリ

下クスシ忠守 丹家康頼十一世ノ孫忠守典藥

頭内院昇殿歌人正四下

一侍從大納言 公明侍從ハ兼官也 侍從ヲモト

ヒトトヨム也正親町三條庶流也

一カラ瓶子 平氏忠盛ノ義也

小キヤウノ心ハ吾朝ノモノニアラスハ唐也忠盛ハ

平氏也即カラ瓶子也此注ニ不及事ナレトモ上

智ノ人ハ根本注説ノ義イラヌ下愚ノ為ニ書付

ル者也

五 荒夕ル宿ノ人又ナキニ女ノ

一ハ、カル事アル頃ニテ、物イニナト也。

一アル人トフヲヒタマハントテ、此段スヘテ此人ノ物

語ヲ書タル體也。

一所セゲナル、所セバゲナル也。

一俄ニシモアラヌ句ヒ常クノソヲ燒タキシメタル句也。

一門ヨクサシテヨ、女房達ノ下部ニイヒ付ル詞也。

一雨モゾフル、雨モフリカセウズラント云事也。

一ココトヨクシテヨ、主内者出テ下ク、云付ル詞也。

一物物、物ノ体、コトヨクシテヨ、主内者出テ下ク、云付ル詞也。

一右右、右ノ体、コトヨクシテヨ、主内者出テ下ク、云付ル詞也。

鳥モ鳴也、此度ナクハ明ハナレキハ也、清少納

言カ枕草子ノ面影アリ

一ヒニシロフナレハ、明ハナレタル心ナリスキ、アカクナ

ルヲ云ソ。

一キホシ出テ桂ノ木ノキホキナルカ、クル、ニテ今モニヲ

クラレタマフトソ。

今其所ヨリヨリ五フニ其折ノ事ヲキホシ出テ桂

ノ木ノカクル、マテニシクルト語玉フ也。

君カスム宿ノ梢ヲユククモカクル、マテニカヘリエシハヤ

菅家歌

一ハ、カル事アル頃ニテ、物イニナト也。

一アル人トフヲヒタマハントテ、此段スヘテ此人ノ物

語ヲ書タル體也。

一所セケナル、所セバケナル也。

一俄ニシモアラヌ句ヒ常クノソヲ燒タキシメタル句也。

一門ヨクサシテヨ、女房達ノ下部ニイヒ付ル詞也。

一雨モゾフル、雨モフリカセウスラント云事也。

一コヨヒソヤスキイハヌヘカメル、今夜ハ心ヤスタ

ヌヘキナリト云テ内衆ノサ、メク也。

一夜フカキ鳥モナキヌ、夜半過テ後ヤウク一番

Handwritten notes in smaller characters, including the word 'Oshichiya' and other annotations.

一キホシ出テ桂ノ木ノキホキナルカ、クル、ニテ今モミヲ

クラレタニフトソ。

今其所ヨリヨリ五フニ其折ノ事ヲキホシ出テ桂

ノ木ノカクル、マテミシクルト語玉フ也。

君カスム宿ノ梢ヲユククモカクル、ニテニカヘリミシハヤ

菅家奇

頃北ノヤカケニキエノヨリタル雪イタウ

前段ニヒトシタエンニヤサシキ體也

一サヤナレトモクマヤタハアヲ又ト八月ハサヤカナレトモ木

陰ナトニテユクヲクモユル也

一ナニクニハアヲストミユルホメタル詞也殿上人成へシ

一ナケシニシリカケテ長押ナカシトモセハ上下ニアリコハ下ノナケ

シ也夕カホニナケシニモエノホフストアリ

一ツキスニシケシ言葉モ盡スニシキ也

一カフシカタキ首ノ字ツヨク女房ノカシラツキ歟カミカタキナト云

心也髪節ト可書カト體公被仰也

以上ノ二段ハ優ニヤサシキ者也源氏枕草子

ノ面カケ誠作物語ノ筆法ノ眼目アラハレタリ

大カタニ思テ心ヲ付サラシハ兼好カ本意無念タ

ルヘキ歟

頃高野ノセウクウ上人此上人傳記未考之此

一段阿字本不生ノ段ト同類ナルヘシ

一コハケウノラウセキ是希有狼籍也

一四部ノ弟子

比丘比丘尼優婆塞優婆夷是ヲ四部

ノ弟子ト云也又四衆トモ云也優婆塞ハ佛弟
子ノ俗男也優婆夷ハ俗女也

一未曾有人惡行 上人ノ詞殊勝也

一イキキテ 腹ノ多ツ事也

玉カツラニカノケンカイキキシケハヒ

河海ニイキマクハラ立也イキトリル心歟

一ハウコン 放言トハヲハナテ惡口シタル義也

頃女ノ物イヒカケタル返事

一龜山院ノ御時 入皇八十九代ノ林草子

一とシタル女房 甘レタル女房也

一堀川ノ内大臣 具守公也 岩倉内大臣トモ号

堀川流正齋 正岩倉内大

通具 具實

新古今撰者

基具

具守 具俊

堀川大政大臣

一イハクラニテ聞シ 何トナクトリアヘ又返事也

此義萬ニアルキ事也

一淨土寺ノ故關白殿

今之九條殿元祖也

九條殿師教公号已心院又号淨土寺

元應二六七薨四十四才

一安喜門院名云有子後堀川院女御皇后宮ヲ云也

淨土寺太政入道公房公ノ女也上京

一山階ノ左大臣殿實氏公ノ弟

西園寺ノ一家洞院實雄号山階左大臣

一ナキ世ナリセハ西園寺太政大臣從一位公經公子

イツハリノナキ世ナリセハイカハカリ

一カク人ニ耻ラル、女是ヨリ一轉々上ヲ破タル論也

一人我ノ相フカク

一殿川ノ内大臣具中女成倉内大臣子

命命我相 執取自體

人相 數取余趣

蔵乘法數曰般若四相

衆生相種々變異相續

壽者相一報命根不斷

一モシ賢女アラハソレモ 此詞尤切也

一百寸陰ギシム人ナシ是ヨクシレルカヲ口カナルカ

淮南子ノ一曰聖人不貴尺之璧而重寸之

陰時難得而易失也

太政大臣
公季子世
云實房
今子目公
房

○

晉陶侃曰：禹惜寸陰，人可惜分陰。

一、コレヨクシレルカ、理ヲ知テ、光陰ヲモシ、サレ様也。

一、モシ人來リテ、光陰ヲシムヘキ理ノタトヘ也。

一、一日ノウチ、飲食便利。

莊子二人ノ上壽ハ百歲大不便中壽ハ八十下壽ハ六

十餘、病瘦喪死憂患、其中開口而笑者、一月

之中、不過四五日而已矣。天與地無窮、人死

者、有時操、有時具、而託於無窮之間、忽然無

異、騏驎之馳、遇隙也不能悅、其志意養其壽

命者、皆非通道者也。

謝靈運ハ法華ノ筆受靈運ハ筆授

法華ノ漢土ヘ渡レル事モ、五六度ニハ過ス、其

時ノ筆受ハ各名ヲシルシタシトモ、謝靈運トハ内

典錄曆代寶記開元釋教錄貞元錄等ニモ不

載之也。世ニ流布妙法華ハ羅什ノ弟子ニ僧叡

ト云シ人ノ筆受也。三十六卷、沮般經ヲ慧嚴

慧觀謝靈運ト三人メ翻譯シタル事ハ諸典ニア

リ、淨土宗抄物ニノリ下書

一、心常ニ風雲ノ思ヒヲ觀セシカハ

大明一統志謝靈運宋永嘉太守德慧及民

民亦相與歛洽郡有名山水肆意遨遊徧歷諸邑所至輒為詩其行田種桑諸篇藹然豈弟之意事文類聚曰謝靈運求入淨社遠師以心雜止之

一慧遠白蓮ノ一シハ介。遠公獨刻蓮華漏ニ六時中念仏ヲ修メテ一高僧傳曰僧慧遠居廬山與劉遺民等結白蓮社晉義熙十年遠公與十八賢同修淨土号白蓮社蓮社音舍修行結為蓮社見千書言故事

慧遠ハ廬山人遠法師也晉代ノ人也 佛祖流記

心雜雜多蓮社友
翻經堂俗流通
可恰一對金山履
埋在地塘芳中

北七二載之廬山ノ遠公往生淨土ノ業ヲ修スル故ニ九品ノ蓮臺ノ社友ト云心ヲ以テ蓮社ト云也謝靈運ハ諸邑ニ徧歷メテ凡ソル所コトニ詩ヲ作リ風雲景氣ヲ面白カルホト心雜亂アルトテ淨社ヘイラント望メトモ遠公ユルカニ也

淨土宗了譽作ノ直牒ノ九云慧遠禪師結衆四十八日行念佛ノ時陶淵明ト謝靈運トノ二人此結衆ニ入ント望ム此ニ淵明ハ衆ニ入レ謝靈運ハ不入衆ニ時ニ衆此ヲ怪ム淵明ハ愚癡ニ嗜酒放逸ヲ事トス謝靈運ハ有智精進ノ行

相譯云トキ
經ラ唐ノ文ニ
カクシテ筆授者

人也然ニ彼ヲ入是深ク疑其意ヲ是ニ蕞遠作
頌ヲ云謝靈ヲ不入心雜起ノ故淵明ヲ競引ス
ル事心專一ノ故矣謝靈運ハ法華ノ筆執者
也嫌雜起心トテ修餘行ヲ故也已上
私曰法華ノ筆受ト云事釋氏ノ教者ハ尋レト
モ正説ナシ今此ノ了譽作ノ書モ日本應永年
中ノ抄物也兼好時代ヨリ遙ニ已後ノ書也兼
好何ノ書記ヲ以テ書タル事ヲ不知不審ニ
一シハラクモ是ナキ時ハ死人ニキナシ
コレナキト云ハ飲食便利等ノ事也重而光陰ヲ

惜ヘキ理リ子ニコロナル事ヲ明ル也

一光陰ナニノ為ニカク一首尾相法也

一ヤマシ人ヤニ修セシ人ハ修セ且ト也

觀行ノニツ也ヤマシ人ト止觀シユセシハ修行也

古今有目過者心ヲ憐也怨者禍ノ有也禍ノ所生必由積怨過ノ所始多因忽小故登峻坂而不跌墜土者慎乎大也路阜
坦而好顛覆者輕乎小也苟執其步雖履險能安輕易其足雖夷路亦墮以性輕積之沉舟繒縞質薄其宜
抑軛公也縞之輕能載舟者積多ノ所致也故墮之崩墮必因其隙斂之毀折皆由于興之刻穿身堤
能禦也子相直空致灰于室 出剎ノ慎隙
恒高名ノ木ノホリ

此段易ノ繫辭ノ文ヲ以テ書タル也

一人ヲヲキテ、又文法ニシキテトシ故ニ今ツテ又字シツヘスリ法度也掟也

一聖人ノイテシメニカナヘリツキテシテナハシ

下繫辭ニ曰君子ハ安而不忘危存而不忘亡

治而不忘亂是以身安而國家不保ツ也

頭雙六ノ上手トイヒシ

一身ヲキサメ國ヲタモタン

此段前段ノ餘義也 身安國家可保也

頭圍碁双六ノ一此段又前段ノ双六ト云ニタリ

テ書圍碁ノ堯始作之双六ハ自天竺起之云

又孟嘗君見河海持統天皇三年禁制

書言故事曰烏曹氏作博陸博陸采名也即

是双六也

一四重五逆

四重トハ擧律義戒擧善法戒鏡益有情各存戒

四重トハ五戒之内除飲酒也謂殺盜姪妾

也是律文ニハ彼羅夷罪ト云也但シ是ハ天竺

ノ語也唐ニテハ是ヲ斷頭羅ト云也人ノ頭ヲキ

ヒハ再ヒ生セサルカ如ク此四重ノ罪ヲ犯セハ懺

悔ノ作メモ滅セサル也

五逆トハ殺父殺母殺阿羅漢破和合僧

出佛身血

頭明日ハトシキ國ヘ

此段ヒトヘニ佛道ヲ修セン事ニス、ムル也。

一必トセハ、諸縁ヲ放下セヨト也。何ノ道ヲモ、必モ又

シカタシトスルハ、佛道ニワルキ也。

一日クシ道トキシ、吾生ステニ、蹠踏タリ

韓又ニ烏乎吾意其蹠跲言、不遂其意、韻會

見跲字之注、又蹠會ノ注曰、蹠跲失時也、一

曰、跌也、蹠ノ字五篇、禮部勻、韻會龍龕手

鑑等無也、直音曰音陀、蹠行、踏自、又音瓜

足理反、私曰、蹠踏ヲ蹠跲教見ナメ見ヘシ

唯此の心と雖も、是の心は、人ハ、年ヨリテ、カ、放トメ、身ハ、信

寓言

一信ヲモキモハシ、禮義ヲモ思ハシ

莊子曰、比干割心、子胥擇眼、忠之禍也、直躬

證父、尾生溺死、信之患也、鮑子立、乾申子不

自理、廉之害也、孔子不見、母匡子不見、父義

之失也、此上世之所傳、下世之所語、以為士

者、正其言、必其行、故服其殃、離其患也。

一此心ヲ得サラン人ハ、五常ヲモ放下メ、佛道ヲ修

セン事ヲ尤ト思、又人ハイカヤウニシリワルウイハ

ウトモク、ルシカラヌト也。

此段ヒトヘニ佛道ヲ修セン事ニス、ムル也

一必トセハ諸縁ヲ放下セヨト也何ノ道ヲモ必モ又

シカタシトスルハ佛道ニワルキ也

一日クシ道トキニ吾生ステニ蹠蹠タリ

韓又ニ烏乎吾意其蹠蹠言不遂其意韻會

見蹠字之注又蹠會ノ注曰蹠蹠失時也一

曰蹠也蹠ノ字五篇禮部勻韻會龍龕手

鑑等無也直音曰音陀蹠蹠行踏自又音瓜

足理反私曰蹠蹠ヲ蹠蹠トナメ見ヘシ

韓文ニ出所アル故ニソ

寓言

莊子曰比干割心子胥擇眼忠之禍也直躬

證父尾生溺死信之患也鮑子立乾申子不

自理廉之害也孔子不見母匡子不見父義

之失也此上世之所傳下世之所語以為士

者正其言必其行故服其殃離其患也

一此心ヲ得サラン人ハ五常ヲモ放下メ佛道ヲ修

セン事ヲ尤ト思ハ又人ハイカヤウニソシリウルウイハ

ウトモクハシカラヌト也

頤四十二モア一リ又ル人

此段ニケナクミクルシキ事ヲアラハセリ

トリワケ老人ノ心モ多シ枕草子ニ此類多シ

一アルシセントハ雲ニ食物ニフケシタルヲケルシト云

饗應アルニスル

おれいとの上清テヨムベシ大臣ノ子ニ大臣ヲモテバシホトト云也

頤今山川ノキホイトノ嵯峨ヘキハシ

菊亭兼季公也西園寺太政大臣實兼公ノ

三男也

今ノ菊亭ノ元祖也

一アルス川一葉抄ニ云伊勢ノ齋宮ノ野宮ハ嵯

峨ノアルス川ニアリ賀茂ノ齋院ノ野宮ハ紫野ニ

有トアリ私曰今嵯峨ニテ野ノ宮ノ舊跡ハ天

龍寺ヨリニ尊院ハ行道ニアリ其邊ニ川ナシリス

川ト云ナラハシタルハ下嵯峨ノ川ハタト云在所ヲ

東ヘユク道ニ小川アリ是ヲ云傳タリサレトモ野ノ

宮ハアルス川ニアリト云説不審也但シ川ハタヨリ

後ニ遷宮アリタル歟

一ノカキノ水足カキノ水也

カキノ

牛ノアカキテアル水

一ウノ一ノ段關道隆カキノカキノ水也

口太夫事カキノカキノ水也

胡四十二モア一リ又ル人

此段ニケナクミクルシキ事ヲアラハセリ

トリワケ老人ノ心モ多シ枕草子ニ此類多シ

一アルシセントハ雲ニ食物ニフケシタルヲダシト云

饗應アルニスル

あわいともの上清テヨムベシ大臣ノ子ニ大臣ヲモテバシホトト云

類今出川ノキホイトノ嵯峨ヘホハシ

菊亭兼季公也西園寺太政大臣實兼公ノ

三男也

今菊亭之元祖也

一アリス川一葉抄ニ云伊勢ノ齋宮ノ野宮ハ嵯

峨ノアリス川ニアリ賀茂ノ齋院ノ野宮ハ紫野ニ

有トアリ私曰今嵯峨ニテ野ノ宮ノ舊跡ハ天

龍寺ヨリニ尊院ハ行道ニアリ其邊ニ川ナシノリス

川ト云ナラハシタルハ下嵯峨ノ川ハタト云在所ヲ

東ヘユク道ニ小川アリ是ヲ云傳タリサレトモ野ノ

宮ハアリス川ニアリト云説不審也但シ川ハヨリ

後ニ遷宮アリタル歟

一ノカキノ水足カキノ水也

カキノ水

一ウツサ殿關白道隆公ノ孫流也信清公也号

坊門又号太秦内府

心野ノ水

女房ノ名トモ。此名ノモ心得カタシ人ノ名ニハ子
細モシ又事ヲ付ル人當代ニモ多シ不知ノ名
ノナルモノト覺悟ノ爲ニ書タル歟

類宿河原トイフ所ニテ

此段又人ノ名ノ又ツラシキアリホロクトハ關東
邊ニハコモ僧ト云モノヲ云ト也ホロクノ草子ト云
物有其人心ニ通タル事多

一宿河原 津ノ國ニアリ

一イロヲシト由ホロ 名目以下シラシ又事ノ之多シ太

わきまのりしるるハ脇を師やワキニサシツガフニ

類寺院ノ号サラ又萬ノ物ニモ名ヲ付ルノ時

此段尤可甘心ト上ノ二段ニ名ノキユヘ又事ヲ

云テサテ名ヲ付ルニアリノ一ヤスラカナルヲ付ヘシ

ト云心也

一人ノ名モモノ字ニ寺院ノ号アラハル

類友トスルニワロキ物七

論語曰益者三友損者二友友直友諒友多
聞益矣友便僻友善柔友便佞損矣

女房ノ名トモ。此名ノモ心得カタシ人ノ名ニハ子
細モシ又事ヲ付ル人當代ニモ多シ不知ノ名
ノアルモノト覺悟ノ爲ニ書タル歟

類宿河原トイフ所ニテ

此段又人ノ名ノ又ツラシキアリホロクハ關東
邊ニハコモ僧ト云モノヲ云ト也ホロクノ草子ト云
物有其人心ニ通タル事多

一宿河原

津ノ國ニアリ

一イロヲシト由ホロ。名目以下シラシメ事ノ之多シ太
秦殿ノ女房ノ名ノ類也

此段尤可甘心ト云ノニ段ニ名ノキユヘ又事ヲ
云テサテ名ヲ付ルニアリノ一ヤスラカナルヲ付ヘシ
ト云心也
一人ノ名ニモノ字ニ寺院ノ号アラハル

類友トスルニワロキ物七

一論語曰益者三友損者二友友直友諒友多
聞益矣友便僻友善柔友便佞損矣

百鯉ノアツ物ヲクヒタル日ハ

此段下ニ鴈ノ事ヲ云ントテ先鯉ノ事ヲ云出ヌリ

一ニカハニモツクル物ナレハ魚ノ事ニカハニモツクル物ナレハ

イ本ニハカニモツクルトアリウルモ膠也魚ノ事ニカハニモツクルトアリウルモ膠也

魚ヲ膠ニ子ル也魚ヲ膠ニ子ル也鯉ヲモ膠ニ子ルヤラン本草ヲ考之

二鯉膠ノ説ナシ鯉膠ノ説ナシ

瓊碎録曰鯉魚膠磨墨刺身上龍則青黑可

愛以紙拭去血名鳥龍皮愛以紙拭去血名鳥龍皮

一中宮後深草院ノ中宮也

一コノクミナ柳昔ハクミナノ御親也

一ニキエトモ殿昔ハクミナノ御親也

鯉字本ニ年綱有勅命云鯉之海魚也

百鎌倉ノ海ニカツトイフ魚ハ鎌倉ノ海ニカツトイフ魚ハ

以上三段鯉鴈カツラフ其類ヲ列スル也

一サウナキトハホメタル詞也無双ナフヒモナク也

類唐ノ物ハ藥ノ外ハナクトモ

一遠キ物ヲ寶トセストモ又得カタキ物ヲ

尚書旅熬篇不寶遠物則遠人格

莊子ノ注云不貴難得之物

老子經曰不貴難得之貨使民不為盜

類鯉ノアツ物ヲクヒタル日ハ

此段下ニ鴈ノ事ヲ云ントテ先鯉ノ事ヲ云出タリ

一ニカハニモツクル物ナレハ魚ノ事ニハカハニモツクル物ナレハ

イ本ニハカニモツクルトアリウルモ膠也鯉ニハト云

魚ヲ膠ニ子ル也ニカラ鯉ヲモ膠ニ子ルヤラン本草ヲ考之

一鯉膠ノ説ナシ魚ノ事ニハカハニモツクル物ナレハ

瓊碎録曰鯉魚膠磨墨刺身上龍則青黑可

愛以紙拭去血名鳥龍皮魚ノ事ニハカハニモツクル物ナレハ

一中宮後深草院ノ中宮也魚ノ事ニハカハニモツクル物ナレハ

一北山入道殿西園寺殿也中宮ノ御親也魚ノ事ニハカハニモツクル物ナレハ

類銚倉ノ海ニカツフトイフ魚ハ魚ノ事ニハカハニモツクル物ナレハ

以上三段鯉鴈カツラシ其類ヲ列スル也

一サウナキトハホメタル詞也無双ナフヒモナク也

類唐ノ物ハ藥ノ外ハナクトモ

一遠キ物ヲ寶トセストモ又得カタキ物ヲ

尚書旅熬篇不寶遠物則遠人格

莊子ノ注云不貴難得之物

老子經曰不貴難得之貨使民不為盜

注曰貨謂珍寶珠玉上化清則下無貪人
類ヤシナヒカフ物ニハ馬牛

事林廣記曰牛資之以耕馬資之以戰尤
有國有家者之所不可緩也

一走ル獸ハギリニコメクサリクサリヲサシ
ヲリトハ獸ノ入ル所也檻字

論語虎兕出於柙龜玉毀於擯牛押檻也貯
虎上也器也

一生ヲクルシメテ日ヲ快シムル桀討カ心也
夏ノ桀殷ノ討也惡逆至極ノ君也

一王子猷カ鳥ヲ愛セシ此のり不害

王子猷之字ハ子猷風流為一時之寇性愛竹嘗
寄居空宅中便令種竹曰竹可一日無此君

邪仕晋為黃門侍郎不排韻一
私云子猷カ鳥ヲ愛シタル事未考之

籠鳥繫獸為其聲狀悅吾耳目為我翫樂令
被憂愁又何不仁也放之山林便得自在何
異脫囚一身自戒一家不殺一郡効之

見于居家必用

一ヌツラシキ鳥アヤシキケタモノ

珍禽奇獸不育于國 尚書旅獒篇

聖人ノ才能ハ文ヲキラカニシテ

一ヒシリノ教 聖人ノ教也四書五經ノ道也

一忠孝ノツトメモ醫ナラスハ

小學曰伊川先生曰病卧於牀委之庸醫比

之不慈不孝事親者亦不可不知醫

一六藝 禮樂射御書數以上六藝也

一文武醫ノ道 是ヨリ前キ其武ヲイハシメタリ了見

一互見メ之ルヘキ也

一食ハ人ノ天也

夫食為人天農為政本倉廩實則知禮節衣

食乏則忘廉耻 帝範務農篇

一多能ハ君子ノ耻ル所也

太宰問於子貢曰夫子聖者與何其多能也

子貢曰固天縱之將聖又多能也子聞之曰

太宰知我者乎吾少也賤故多能鄙事君子

多哉不多

一絲竹ニ又ハナリ

於絲竹特妙ナリ

注絲竹ハ絃管也 文選思舊賦

一幽玄ノ道トハフカキ道也。幽微玄妙ノ義也。

一今ノ世ニハ昔ハ詩歌管絃ノ道ニテ世ヲサメシ事
モアリツレトモ幽玄トフカクカスカナル道ニテ今ノ世
ニハ是ニテハフサメラレヌト云事也。

一金ハスクレタレトモ鐵ノ益多ニシヌ本説アルヘシ未
考之

頗無益ノ事ナシテ

居家必用ニ曰無益之事不可為謂如賭博籠
養打球踢球放風禽等事也

弘法大師十五無益

大事異見 上下人短 酪酏物語

衆會大食 遠路財寶 不習醫道

夜行惡言 下戸數盃 老耄出仕

出家腕立 愚者教化 出仕雜談

隔心推參 貪者見物 無心所望 已上

一四ノ事儉約ナラハ 食物 衣服 居所并醫藥

此四條ヲ諸藝ノ中專要トメ其外ヲハ無益ト

フリステツ、又用ルナラハタレクモ不足トハセマシ

キ也

類是法法師ハ淨土宗ニハ千ストイヘトモ

○新千載集卷十八是法々師ノカシニモ同ニ後世ト稱物ヲイカハル山ニ身ヲカクサニ
類人ニヲクレテ四十九日ノ一

此段少シ心得カタシタ、愚人ノ人ヲホムルニタト
ヘヲトル事ツタナキ事ヲ云歟

類ハク千ノ一極リ

此段萬事ニワタルヘキ也陰極テ陽生火極テ以
氷ノ心也天地万物ノ道ニヒト也

類アラタメテ益ナキ事ハ

曾有人作長府関子寒言曰仍旧貫如何
何如改作

上九十九段ニシヤセニシセスヤアラシト云ニ心

已通へ川

類サアサノ大納言

雅房一村上源氏号ス後ノ土御門大納言
正二太政大臣後三定實公男也

一院ノ近習 此時院御前二院アリ 後深草

龜山 後宇多也 後深草龜山ハ雅房大納

言時分ハ法皇ナレハ院ト云ハ後宇多院タルヘシ

一殘害 物ノ命ヲソコナヒコロス事也 畜類ニ同シ

一ヨロツノ鳥チイサキムシニテモ

○中坊
右公一ニ
冬ナカラ
春ソトナリ
ノ通ケルハ
中坊ヨリ
ソスチ
リケル

千金方曰凡古名賢治病多用生命以濟災
急雖曰賤畜貴人至於愛命人畜一也損彼
益己物情同患况於人乎夫殺生求生去生
更遠今之此方所以不用生命物為藥也其
虻蟲水蛭葦市有先死者可市而用之不在
此例居家必用曰人與物同

貪生畏死人與物同也憂戀親屬人與物同
也當殺戮而痛苦人與物同也所以不同者
人有智物則無智人能言物則不能言人之
力強物之力微弱人以其無智不能自蔽其

身以其不能言而不能告訴以其力之微弱
不能勝我因謂物之受生與我輕重不等遂
殺而食之云食鳩鴿鶻雀者殺十餘命方得
一羹食蚌蛤蝦蜆者殺百餘命方得一羹嗟
乎染習成俗見聞久當如此而不以為怪深
思痛念云

顏回ハコ、ロサシ人ニ勞フホトコサシト也

顏回曰願無伐善無施勞

一物ヲシヘタクル事シヘタクルトハセムル心也虐也
一民ノシシレウハフヘカラス

論語三軍可奪師匹夫不可奪志

一タレカ實有ノ相ニ

念慮ヲハナレタル眞實無相ノ理ニハ至リカタク也

一病ヲウクル事キホクハ心ヨリ

百病生氣ヨリ素問

一外ヨリ來ル病トハ寒暑燥風火ノ身ヲツカス病トナ

ルヲ云

一藥ヲノミテ汗ヲモトムルニハ

夫服藥求汗或有弗獲而愧情一集則溼然

トメ流離ス 文選稽康養生論ニ詳也

一レウウシノ額ヲカキテ

魏明帝立凌雲觀先針榜以籠盛膏誕轉轡

引上書之去地廿五丈既下鬚鬢皓然還語

子弟宜絕此法 見三國史 又世說曰

韋仲將能書魏明帝起殿欲安榜使仲將登

梯題之既下頭鬢皓然因勅兒孫勿復學書

凌雲臺上壁方十三丈高九尺樓方四丈

高五丈棟去地十三丈五尺七寸五分

世百物ニアラスヲハスヲノレヲ一ケテ

君子與人^レ不^レ爭^レ 論語

一我カ身ヲ後ニシテ人ヲ先ニスル禮讓也

自未得度先度他^ニ 温般經

一善ニキヨラス 願無^レ伐^レ善^ニ 論語

百^ノツシキモハ賤ヲモクテ禮トシ

此段我カ分サイヤシラスメ不^レ叶^クコト別ヲスル誤ヲ

云ヘリ曲禮ニ貪^ル者不^レ以^テ貨財為^ス禮老者不^レ以^テ

筋力為^ス禮

一^ニルサランハ

不^レ以^テ貨財為^ス禮^ト 注曰禮許儉不^レ非無也

類鳥羽ノツクリ道

鳥羽殿ハ白河院ノ時立ラシ又ル也仙洞也

一元良親王 陽成院ノ御子也

一元日奏賀ノ聲 朝賀ノ時アル事也

一大極殿 内裏御殿ノ名也 大嘗會御即位

ト、小行ル、殿也

一李部王記トハ延喜御子式部卿重明親王ノ御

記也

式部ノ吏部ト云フハ法式ノ司ル者ナシハ吏ト云フ 行理行吏行 李部通用スル

顔三ノルノキト、ハ東ニクラ也

一 礼記曰寢時東首

ヨルノキト、汪前十二段ノキト口ヘタル末ノ世ト云

所ニ詳ニシルセリ

一 孔子モ東首

郷黨篇

疾君視之東首加朝服挹紳孔子

病而哀公來視也病者欲生東是生陽之氣

故東首也

高倉院ノ法華堂ノ三昧僧

人皇八十代後白河院第三ノ御子也

一 三昧僧ハ三昧ヲコナフ僧也三昧梵語也

一 コ、二公正受ト云又名正見

一 雪ノ首

人生行足何時足未老得前方是向 白屋易

一 春ノ日ノ光ニテタル我ナレト首ノ雪ト成ソワヒシキ

一 人ニコアル媚ヘツラウ心也

東坡三馮顛久已報殘者

一 命ヲ終ル大事 此結句尤殊勝也

其資季大納言入道

此段才智ニホコリ人ヲアサムキマナツル事ヲ戒

兼家公
之ヲ云
道綱
六之七五
曰從之
段中將
資家
即資家
壬子之文
也

一 儿也。資季大納言資信公忠平子也法興院攝政兼家公ノ末
孫号揚梅此流當流斷絶具氏宰相中將村
上源氏久保内侍通稱公子通方卿ノ孫通氏卿ノ子此流斷絶也
一 口又シ。汝也大約三三五二中流元祖今在中流ノ系俗ニヲ又シト云詞也又吾濟存傳
一 入吾ト云事ヲワト一字ニテワカニト云ヤウナ事ソ
一 一ハカクシキ事ハ具氏ノ詞也
一 一テシテコ、モトノ。資季ノ詞也
一 御前ニテ。院ノ御前ニテ也
一 供御ヲフケテルヘシスルニイトクノアライカイ也
一 一ススルハコシラユル也

一 馬ノキツリヤウ

ソ、口事ニテ道理モナウ人ノユイ傳タル名目斗
ナルヘシ今キソ、口事ニハワケモナキ名目アルソ

一 所課 課役也

課ハソフストヨ共所作シラフスルヲ云ハ
ソフケモナカケテニニニテフハニテラマニ

一 類クスシアツシケ故法皇ノ

一 此段心ハ前ニナシ

一 故法皇 花園院号教原法皇貞和四十月十

一 日期

一 クノウ 功能也

程公曰
字義
ハシ偏
ノ字不
可見ト
也

又子ノ
シツリ
ト云ハ
倫カ
ト云ク

一六条ノ故内府 村上源氏通光公孫也。有房

從一内大臣今六條以之為元祖和漢才能書号久我六條内府

一シホトイフ文字 鹽ハ 俗字也。鹽 正字也。

一トヨミニ成テトハトツトワラハレテト云心也。

響音トヨムトヨム

引 秋萩ニウラヒレシハノシ引ノ山シタトヨミ鹿ノ鳴ラン

引 杣人ハ官木ヒクラシ足引ノ山ノ山ヒコ聲トヨムラニ

ナラハノ今キハノ集ニシツカキヤキヤ各目ハラシ
ナラハノ今キハノ集ニシツカキヤキヤ各目ハラシ
ナラハノ今キハノ集ニシツカキヤキヤ各目ハラシ

菅由益書入古書全二冊

尾張国愛智郡金城下前津小林隱士

伯應亮惠天庫

寛政四年壬子歲三月日



菅由益



